

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第29集

# 細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡

第二東名No.148・No.148-3地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市 - 9

2013

中日本高速道路株式会社東京支社  
静岡県埋蔵文化財センター



# 序

第二東名（新東名）高速道路の建設に伴い、静岡県内では埋蔵文化財発掘調査が大規模に行われました。静岡県東部の愛鷹山東南麓では、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在することが以前から知られています。そして数々の発掘調査によって、さらに多くの貴重な遺跡が発見され、追加されました。

本報告書は裾野市域の第二東名建設に伴う発掘調査報告書の9冊目にあたります。平成19年3月に刊行された佛ヶ尾遺跡（第二東名No147地点、裾野市-1）を端緒に、平成20年3月にはその南に隣接する下ノ大窪遺跡（第二東名No146地点、裾野市-2）の報告書を刊行しました。以降、棚返遺跡・今里遺跡（第二東名No153地点・No153-2地点、裾野市-3）、老平遺跡（第二東名No145地点、裾野市-4）と続き、本報告書にいたるまで、裾野市域でも数多くの報告書が刊行されました。

今回報告する細沢遺跡（第二東名No148地点）・南山Ⅲ東遺跡（第二東名No148-3地点）は、裾野市千福及び葛山に所在する縄文時代を中心とした遺跡です。これまでの発掘調査では、裾野市をはじめ愛鷹山・箱根山麓では陥穴と考えられる土坑が多く検出されています。その多くは緩やかな尾根上や谷へと続く斜面から検出されており、陥穴を用いた狩猟形態にも何らかの形式があったことが少しずつ明らかになってきました。本遺跡からも谷部分から土坑が検出されました。検出された地形や深さなどから判断すると陥穴と考えられ、周辺遺跡との共通点がうかがわれます。

多大な労力をかけて高い精度で行ってきました発掘調査の結果を、埋蔵文化財発掘調査報告書としてようやくまとめることができました。本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年2月

静岡県埋蔵文化財センター所長  
勝田順也

# 例　　言

1 本書は静岡県裾野市千福地先に所在する細沢遺跡(No148地点)、静岡県裾野市葛山字南山1337-1他2筆に所在する南山Ⅲ東遺跡(No148-3地点)の発掘調査報告書である。

2 調査は第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。

3 確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。

確認調査(細沢遺跡) 平成16年4月～8月 実掘面積1,498m<sup>2</sup>

本調査(南山Ⅲ東遺跡) 平成17年4月～7月 実掘面積280m<sup>2</sup>

資料整理(細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡) 平成24年5月～平成25年3月

4 調査体制は以下のとおりである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成16年度 確認調査(細沢遺跡)

所長兼副理事長 斎藤 忠 副所長兼理事 飯田英夫

総務部長兼常務理事 平松公夫

総務部次長兼総務課長 錦田英巳

経理専門員 稲葉保幸

総務係長 佐藤美奈子 会計係長 野島尚紀

調査研究部長 山本昇平

調査研究部次長兼資料課長 栗野克巳

保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十三

調査研究三課長 足立順司

主任調査研究員 笹原芳郎 柴田睦

調査研究員 小林正和

平成17年度 本調査(南山Ⅲ東遺跡)

所長兼副理事長 斎藤 忠 総務部長兼常務理事 平松公夫

主幹兼経理専門員 稲葉保幸

総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎

調査研究部長 石川素久

総務係長 佐藤美奈子 事業係長 野島尚紀

保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼資料課長 栗野克巳

主任調査研究員 前嶋秀張

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十三

調査研究員 原田利志美

静岡県埋蔵文化財センター

平成24年度 資料整理

所長 勝田順也 次長兼総務課長 八木利眞 調査課長 中鉢賢治

主幹兼任業係長 前田雅人 総務係長 瀧みやこ

調査第一係長 富樫孝志 第二係長 溝口啓啓 主査 岩本 貴

常勤嘱託員 五味奈々子 長谷川哲也

5 本書の執筆は長谷川哲也が行った。

6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。

7 調査で実施した委託事項および委託先は下記の通りである。

平成17年度 掘削業務 三星建設工業株式会社 測量業務 大成エンジニアリング株式会社

平成24年度 整理作業・保存処理・遺物写真撮影業務委託 株式会社パソナ

黒曜石産地推定 独立行政法人沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦氏

8 資料整理については以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。

池谷信之 小崎 晋(五十音順・敬称略)

9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

# 凡例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第VII系を用いた国土座標、日本測地系(改正前)を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標(改正前)を基準に設定した。  
細沢遺跡(X = -89370.0, Y = 35580.0) = (1, A)  
南山Ⅲ東遺跡(X = -89150.0, Y = 35820.0) = (1, A)
- 3 出土遺物は4桁の通し番号(=遺物番号)を付して取り上げた。報告書中の挿図番号とは同一でない。
- 4 各実測図の縮尺は、遺構1/40、土器1/3、石器4/5を原則とし、それぞれにスケールを付した。
- 5 色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』(農林水産省技術会議事務局監修1992)を使用した。
- 6 土層名は以下に表示した名称を用いる。  
細沢遺跡 第2章第2節の基本土層図(第4図)  
南山Ⅲ東遺跡 第3章第2節の基本土層図(第27図)
- 7 第1章第1節の周辺遺跡地図(第1図)は国土地理院発行1:25,000地形図「裾野」を複写し加工・加筆した。
- 8 本文中の遺構・遺物に関する表記は以下のとおりである。  
RG 磬群 SF 土坑 SY 集石遺構
- 9 石器の石材分類は(南考古石材研究所の柴田徹氏と山本薫氏による石材標準資料を用い、財静岡県埋蔵文化財研究所常勤嘱託調査員 柴田亮平(当時)、同研究所技術員 森嶋富士夫(当時)が実施した)。
- 10 黒曜石の産地判別群は独立行政法人沼津工業高等専門学校 名譽教授 望月明彦氏の分類によるものである。判別群の略号は次表の通りである。

長野	諏訪星ヶ台群	SWHD	静岡	天城柏崎群	AGKT
	和田鷹山群	WDTY	東京	神津島恩馳島群	KZOB
	和田小深沢群	WDKB			

- 11 石器・礫の観察にあたり、実測図中の指示記号及び表現は以下の通りである。

	新しい欠損		敲打痕の範囲	—	推定線
	節理面		磨りの範囲		

- 12 本文中・挿図中の石材の略称は以下のとおりである。

和名	英名	標準資料 略号	和名	英名	標準資料 略号
玄武岩(多孔質)	vesicular basalt	VBa	チャート(黒色)	black chert	Ch(Bl)
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GA	硬質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)	頁岩	shale	Sh
安山岩(多孔質)	vesicular andesite	VAn	ホルンフェルス	hornfels	Hor
流紋岩	rhyolite	Rhy	董青色		
黒曜石	obsidian	Ob	ホルンフェルス	cordierite hornfels	Hor(Co)

# 目 次

## 序／例言／凡例

## 第1章 調査の経過と概要

第1節 調査の経緯と方法	1
--------------	---

## 第2章 細沢遺跡

第1節 調査の概要	7
-----------	---

第2節 基本層序	9
----------	---

第3節 遺構と遺物	11
-----------	----

## 第3章 南山Ⅲ東遺跡

第1節 調査の概要	38
-----------	----

第2節 基本層序	40
----------	----

第3節 遺構と遺物	42
-----------	----

## 第4章 調査結果のまとめ

第1節 細沢遺跡	47
----------	----

第2節 南山Ⅲ東遺跡	48
------------	----

## 附編 分析

### 細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡 出土黒曜石产地推定分析

独立行政法人 沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦	50
-----------------------------	----

## 写真図版

## 抄録

# 挿図目次

## 第1章

- 第1図 補野市内第二東名関連遺跡  
及び周辺の主要旧石器・縄文時代遺跡…3  
第2図 遺跡周辺地形……………4

## 第2章

- 第3図 細沢遺跡 テストピット及び  
グリッド配置図…7  
第4図 細沢遺跡 基本土層図…9  
第5図 細沢遺跡 土層堆積状況…10  
第6図 細沢遺跡 旧石器 全体図…11  
第7図 細沢遺跡 旧石器  
1号・2号礫群…12  
第8図 細沢遺跡 旧石器 3号礫群…13  
第9図 細沢遺跡 縄文 遺構全体図…15  
第10図 細沢遺跡 縄文  
1号・2号集石…16  
第11図 細沢遺跡 縄文 土坑1…17  
第12図 細沢遺跡 縄文 土坑2…18  
第13図 細沢遺跡 縄文 遺物出土状況…20  
第14図 細沢遺跡 縄文 遺物集中部…20  
第15図 細沢遺跡 縄文  
土器分類別分布…21

- 第16図 細沢遺跡 縄文土器1…22  
第17図 細沢遺跡 縄文土器2…23  
第18図 細沢遺跡 縄文  
石器種別出土状況…26  
第19図 細沢遺跡 縄文  
石器石材別出土状況…27  
第20図 細沢遺跡 縄文 石器1…28  
第21図 細沢遺跡 縄文 石器2…29  
第22図 細沢遺跡 縄文 石器3…30  
第23図 細沢遺跡 縄文 石器4…32  
第24図 細沢遺跡 縄文 石器5…33  
第25図 細沢遺跡 縄文 石器6…34

## 第3章

- 第26図 南山Ⅲ東遺跡 グリッド配置図…38  
第27図 南山Ⅲ東遺跡 基本土層図…40  
第28図 南山Ⅲ東遺跡 土層堆積状況…41  
第29図 南山Ⅲ東遺跡 遺構全体図…42  
第30図 南山Ⅲ東遺跡 土坑…43  
第31図 南山Ⅲ東遺跡 遺物出土状況…45  
第32図 南山Ⅲ東遺跡 出土遺物…46

# 挿表目次

## 第1章

- 第1表 遺跡地名表…4

## 第2章

- 第2表 細沢遺跡 旧石器 磚群組成表…13  
第3表 細沢遺跡 旧石器 磚一覧…14  
第4表 細沢遺跡 縄文 集石組成表…16  
第5表 細沢遺跡 縄文 土坑一覧…18

- 第6表 細沢遺跡 縄文土器観察表…24

- 第7表 細沢遺跡 石器組成表…25

- 第8表 細沢遺跡 石器観察表…36

## 第3章

- 第9表 南山Ⅲ東遺跡 土坑一覧…44  
第10表 南山Ⅲ東遺跡 石器組成表…45  
第11表 南山Ⅲ東遺跡 石器観察表…46

## 写真図版目次

図版1	細沢遺跡 調査区全景(北東から)	図版5	細沢遺跡 繩文土器(1)
	細沢遺跡 東拡張区 調査区全景 (西から)	図版6	細沢遺跡 繩文土器(2)
図版2	細沢遺跡 東拡張区 休場中層直上 瓦群分布 (北西から)	図版7	細沢遺跡 旧石器・繩文 石器(1)
	細沢遺跡 休場中層 瓦群検出状況(西から)	図版8	細沢遺跡 繩文 石器(2)
	細沢遺跡 休場中層 瓦群2	図版9	南山Ⅲ東遺跡 調査区全景 (北西から)
	細沢遺跡 休場中層 瓦群3		南山Ⅲ東遺跡 調査区全景 完掘状況 (北から)
図版3	細沢遺跡 東拡張区 繩文層 遺物出土状況(東から)	図版10	南山Ⅲ東遺跡 土坑検出状況 (南東から)
	細沢遺跡 東拡張区 繩文層 遺物出土状況(北から)	南山Ⅲ東遺跡 土坑2 完掘状況 (南から)	
図版4	細沢遺跡 西拡張区 繩文層 第I群土器出土状況(北から)	南山Ⅲ東遺跡 土坑3 完掘状況 (西から)	
	細沢遺跡 東拡張区 繩文層 集石1 検出状況(北西から)	南山Ⅲ東遺跡 土坑4 完掘状況 (西から)	
	細沢遺跡 東拡張区 休場中層 7号土坑 完掘状況(西から)		南山Ⅲ東遺跡 繩文 石器



# 第1章 調査の経緯と概要

## 第1節 調査の経緯と方法

### 1 調査の経緯

新東名高速道路の開通によって渋滞の緩和だけでなく、内陸地域と沿岸地域との新たな交流、さまざまな経済効果が期待されている。しかし、最も期待される事項は、我が国の交通の大動脈である東名高速道路の代替性を確保できたということであろう。予期される災害時には、これまでの東名高速道路よりも内陸部を通ることから津波の被害を受けにくく、サービスエリア等にはヘリポートが整備され、災害時等には傷病者の搬送や支援物資の輸送等を行うため、空と陸の結節点としての役割も期待されている。

混雑化の一方をたどる東名・名神高速道路の交通量増加を緩和するために、昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。平成元年1月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、愛知県飛島村から神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市にいたる延長約270kmの第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170kmと、第二東名高速道路の中核をなす。この基本計画を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置したが、静岡県教育委員会文化課もメンバーとして協議に参加した。

第二東名建設事業を進めるにあたり、環境影響調査等が行われるに至った。それと並行する形で埋蔵文化財の分布状況の把握作業も行われた。まず、日本道路公团東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長あてに、長泉町から引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。その後、日本道路公团東京第一建設局静岡調査事務所長から静岡県教育委員会教育長あてに、埋蔵文化財包蔵地の所在の有無に関する照会が行われた。この結果、静岡県教育委員会は平成4年9月29日に関係市町村教育委員会を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。その結果、平成5年3月18日付で、静岡県教育委員会教育長から日本道路公团東京第一建設局静岡調査事務所長あてに回答がなされた。この時点での調査対象箇所は136ヶ所、調査対象面積が1,453,518m<sup>2</sup>となった。

その後、長泉町から引佐町間については、平成5年11月19日付で日本道路公团に施行命令が出された。これに伴い日本道路公团東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で、埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。発掘調査の実施については日本道路公团が静岡県埋蔵文化財調査研究所への委託が行われた。しかしながら、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が容易に想定され、そのための調査体制をどのようにして確保していくかが大きな課題となつた。

翌平成6年度には、静岡県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について、具体的な調査を進めるための状況調査を行つた。さらに前年示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告と取りまとめがなされた。これにより、調査対象地点の見直しが行われ、この段階での調査対象箇所は133ヶ所、調査対象面積は1,286,759m<sup>2</sup>となった。

平成7年度後半には、路線の一部で幅杭の打設が開始された。埋蔵文化財調査の開始めどが立つたなか、平成7年12月13日に「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」の第1回協議が行われ、以降埋蔵文化財の詳細な取り扱いについては、この会議によって協議していくこととなつた。なお、日本道路公团静岡建設所は平成8年7月1日をもって、日本道路公团静岡建設局に改組された。同年9月25日付で、日本道路公团静岡建設局と静岡県教育委員会、さらに調査実施機関である静岡県埋蔵文化財調査研究所

を入れた三者は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半に、掛川市倉真のNo94地点ほかの確認調査が実施され、平成9年度からは発掘調査も本格化し、県内各地の第二東名高速道路の建設予定地において確認調査から順次着手していった。

細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡の当該区間である長泉町から御殿場市間については、平成6年度より建設省の依頼により踏査が行われた。それを契機として、平成9年度に埋蔵文化財包蔵地の有無についての照会、平成10年度には関係する市町教育委員会に再踏査の依頼がされた。そして平成10年12月17日付で静岡県教育委員会教育長から日本道路公團静岡建設局長への回答を行った。この区間で埋蔵文化財の対象となった箇所は21地点、調査対象面積は108,734m<sup>2</sup>となった。これらについても財團静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとなり、平成11年3月5日付で協定変更を行っている。この協定変更によって、No144地点～No155地点の計12ヶ所が調査の対象となった。その後、平成13年度から平成16年度にかけての4度にわたる協定変更により、新たに9地点が追加され、合計21ヶ所の地点の調査を財團静岡県埋蔵文化財調査研究所が担うこととなった。

本書で報告する細沢遺跡(No148地点)・南山Ⅲ東遺跡(No148-3地点)は、平成17年3月31日付の第18回協定変更で、千福南山Ⅲ西遺跡(No148-2地点、報告書刊行済)とともに追加された遺跡である。裾野市内の遺跡については、その後の踏査および確認調査の結果、No147-2・148・152・155の4つの地点が本調査の対象から除外されたため、本調査を実施した箇所は合計17ヶ所の遺跡である。そして、第二東名建設の建議がなされてから、およそ四半世紀を経た平成24年4月14日に、御殿場JCTから三ヶ日JCT間の162kmが新東名高速道路として開通する運びとなった。

なお、以上の文面は平成19年3月刊行の『佛ヶ尾遺跡 第二東名No147地点』(静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第175集)第1章第1節をほぼ引用した。組織名に関しては、調査当時の名称で記した。

## 2 環境

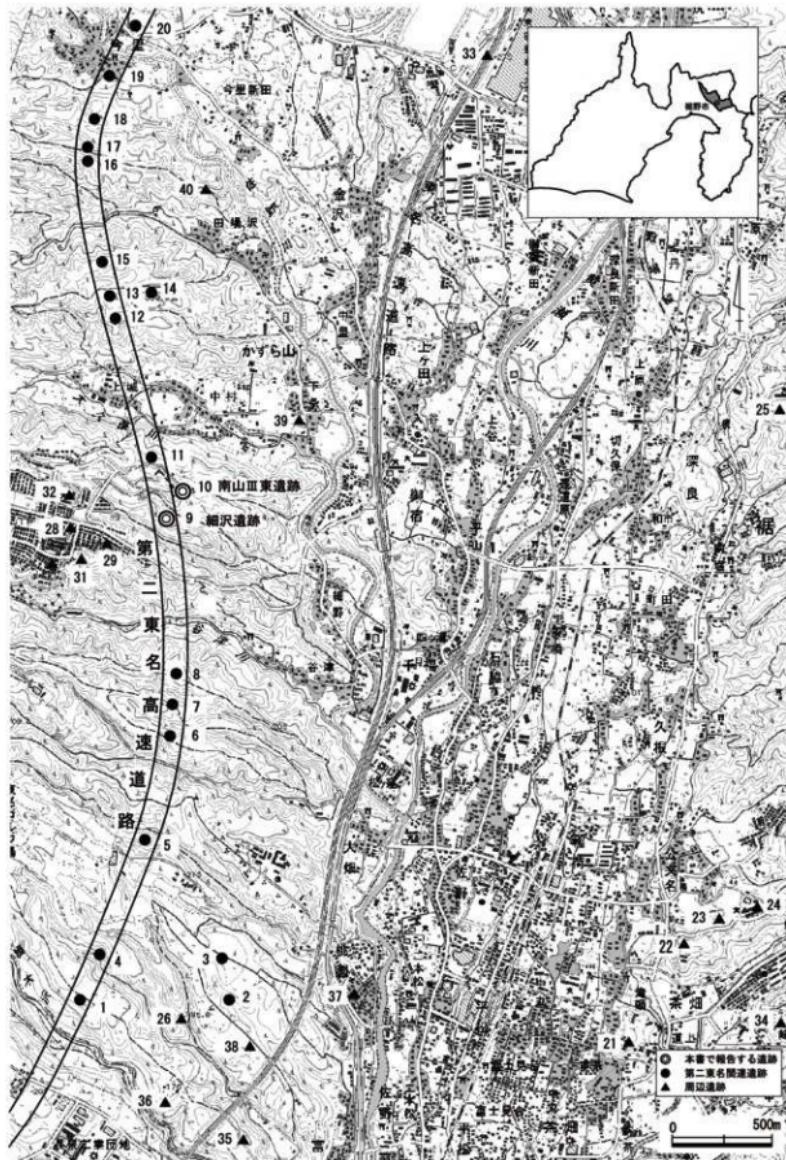
### (1) 地理的環境

本遺跡は、愛鷹山麓の東麓に市域を有する裾野市に所在する。裾野市は人口およそ5万4千人(平成24年6月当時)の静岡県東部の市であり、近隣の三島市や沼津市のベッドタウンである。四至は北を御殿場市、南を駿東郡長泉町と三島市に接し、西は富士市、東は神奈川県と接する。東西を愛鷹山と箱根山にはさまれ、市内中央を南流する黄瀬川によって形成された河岸段丘上に、中心市街地が形成されている。主要幹線道路は、黄瀬川の西岸を東名高速道路と国道246号線が市域を並走するように南北に走り、東岸はJR御殿場線が継走する。また、愛鷹山・箱根山に源流を持つ黄瀬川の各支流が開折谷を形成し、枝尾根が無数に広がっている。特に愛鷹山東南麓の尾根は緩やかな丘陵をなしているため、尾根上にはゴルフ場やレジャー施設が多数建設されている。裾野市域は火山灰を含む土地に立地しているため湧水は少なく、農業用水の確保が古くからの問題であった。そのため、深良用水に代表される灌漑施設が近世に造られた。

昭和44年(1969)東名高速道路の開通により、裾野市は約1時間で首都圏と結節することが可能となつた。東名高速道路による輸送路の確保、首都圏より100km圏内の距離など、その立地条件の利便性ゆえに多くの製造業の工場が裾野市内に進出し、製造物の出荷額は県内でもトップクラスとなっている。

本遺跡はJR裾野駅から北西方向約4kmに位置する東急千福ニュータウンの東側、南北を黄瀬川支流の谷津川と大久保川に挟まれた大規模な尾根上の、ごく小さな谷部に立地している。また、谷は南側に向かい緩やかな傾斜を呈している。

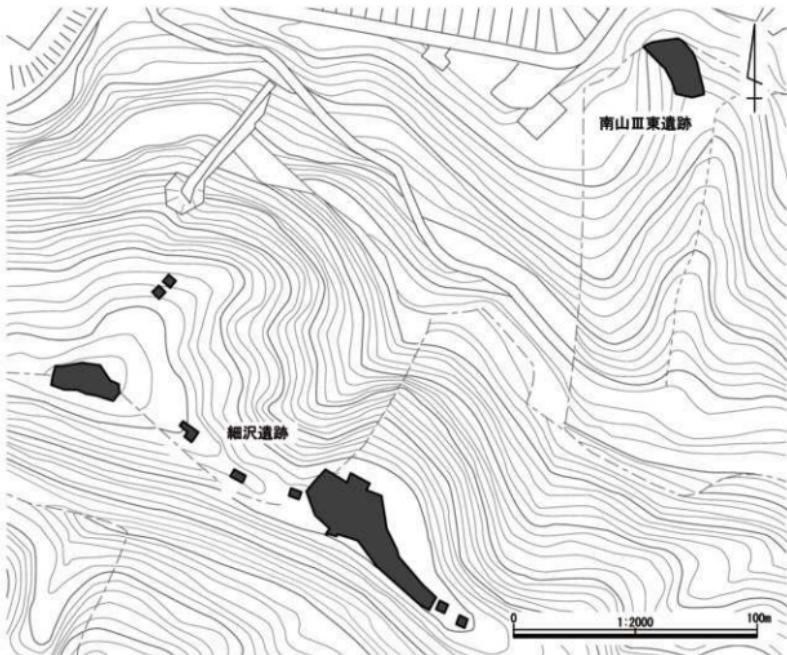
通称愛鷹山、または愛鷹山連峰と呼ばれるこの山塊は、最高位1,504mの越前岳など9つのピークか



第1図 堀野市内第二東名関連遺跡及び周辺的主要旧石器・縄文時代遺跡

第1表 遺跡地名表

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	第二東名No. 144 地点 塚松遺跡	旧石器・縄文（草創～中）	21	道場山遺跡	縄文（中）
2	第二東名土-3 地点 富沢内野山Ⅰ西遺跡	旧石器・縄文（草創～後）他	22	天神山・屯屋敷遺跡	縄文（早～中）
3	第二東名 CR36 地点 富沢内野山Ⅰ北遺跡	旧石器・縄文（草創・早・中）他	23	日向遺跡	旧石器
	第二東名 CR36 地点 富沢内野山Ⅱ西遺跡	旧石器・縄文（草創～後）他	24	丸山Ⅱ遺跡	旧石器
	第二東名 CR36 地点 富沢内野山Ⅱ遺跡	旧石器・縄文（草創～中）他	25	城ヶ尾遺跡	縄文（早～中）
4	第二東名No. 144-2 地点 入ノ洞B遺跡	旧石器・縄文（早・前）	26	富沢内野山Ⅰ遺跡	縄文（早～後）
5	第二東名No. 144-3 地点 内野山Ⅱ遺跡	旧石器・縄文（早・中）	27	中畠遺跡	縄文（早・前）
6	第二東名No. 145 地点 老平遺跡	旧石器・縄文（草創～中）	28	千福市場平第一遺跡	縄文（早～中）
7	第二東名No. 146 地点 下ノ大窪遺跡	旧石器・縄文（草創～後）他	29	千福市場平第二遺跡	縄文（早）
8	第二東名No. 147 地点 佛ヶ尾遺跡	旧石器・縄文（草創～中）他	30	千福小杉平第一遺跡	縄文（早）
9	第二東名No. 148 地点 細沢遺跡	本報告（確認調査のみ）	31	千福小杉平第二遺跡	縄文（早）
10	第二東名No. 148-3 地点 南山Ⅲ東遺跡	本報告	32	細野沢遺跡	縄文（草創～中）
11	第二東名No. 148-2 地点 千福南山Ⅲ西遺跡	縄文（前～後）他	33	上川遺跡	旧石器・縄文
12	第二東名No. 149 地点 上條遺跡	旧石器・縄文（早・前・後）	34	峰下遺跡	縄文（早～中）
13	第二東名No. 150 地点 萩山大塚ヶⅠ遺跡	旧石器・縄文（早～後）	35	富沢平林・平林Ⅰ遺跡	縄文（早・中）
14	第二東名No. 150-2 地点 萩山大塚ヶⅡ・落葉遺跡	旧石器・縄文（早～後）	36	平林Ⅱ遺跡	縄文（早）
15	第二東名No. 151 地点 萩山大塚ヶⅡ遺跡	旧石器・縄文（早・前）他	37	尾畠遺跡	旧石器・縄文（早～中）
16	第二東名No. 152 地点	確認調査	38	細山遺跡	縄文（早・中）
17	第二東名No. 153 地点 櫻返遺跡	旧石器・縄文（早～晚）他	39	下条遺跡	縄文（早・中・後）
18	第二東名No. 153-2 地点 今里遺跡	縄文	40	田塙沢藪山遺跡	縄文（早～中）
19	第二東名No. 154 地点 葦跡海道遺跡	縄文（中～晚）他			
20	第二東名No. 155 地点	確認調査			



第2図 遺跡周辺地形

らなり、通称にも用いられている愛鷹山は山塊の最も南に位置する山である。この山塊が愛鷹山という通称で呼ばれる理由の一つに、愛鷹山山頂に愛鷹明神をまつる桃沢神社奥社(上社)が鎮座しており、このことが愛鷹山と通称される由来とされている。本報告では通称の愛鷹山で統一する。

これまでの第二東名建設事業に伴う発掘調査や、それ以前の発掘調査によって、愛鷹山の南麓から東麓の丘陵において、多くの旧石器時代・縄文時代の遺跡が確認され、全国的にも注目される地域となつた。本遺跡もそれらの遺跡の一つである。愛鷹山は約40万年前に活動を開始し、数度の活発な火山活動を経て、約10万年前に活動を停止した円錐形の成層火山である。火口は長い年月の間に開拓・埋没し、位牌岳の西側にあったと考えられているが、明瞭な火口地形は残っていない。山体は玄武岩質や凝灰角礫岩の噴出物と、安山岩質の噴出物によって形成されたと推定され、これらの噴出物上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層が、何層にも堆積して現在の愛鷹山が形成されている。愛鷹ローム層は上部ローム層と呼ばれ、現在のところ、この上部ローム層においてのみ人類の遺跡が確認されている。前述した複数のピークから生じる湧水は無数の小さな水系となり、浸食作用によって入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流河川に合流する。

遺跡の位置する標高約260mの丘陵部には近接して複数の遺跡が存在する。そのうち、遺跡の北西約400mのところには、第二東名建設事業に伴う発掘調査で財团法人静岡県埋蔵文化財調査研究所によって調査報告され、縄文時代の土坑が多数発見された千福南山Ⅲ西遺跡がある。また、遺跡から西約600mの所には、弥生時代の遺跡とされる南山遺跡、そこから南へ100mほど先にある裾野市立千福が丘小学校敷地は、縄文前期諸磯b式期の集落である細野沢遺跡である。

愛鷹山東麓は枝尾根が多く入り込み、尾根上の平坦な場所を選ぶかのようななかたちで遺跡が存在する。第二東名建設事業に伴う発掘調査で明らかになりつつあるが、裾野市域の旧石器・縄文時代の遺跡の多くはこのような立地条件で形成されていることが多い。

また、愛鷹山東麓は富士山・愛鷹山と箱根山系との狭隘地に平野部が南北に走り、古代以来東西日本を結ぶ交通路として活用してきた。そのため、中世に入ると地形の持つ重要性から、各地に多くの城砦が築かれた。本遺跡の北東方向、大久保川対岸の葛山氏居館跡、葛山城跡などはその典型例である。

前述の通り、第二東名建設事業に伴う発掘調査が進んだことにより、愛鷹山麓には非常に多くの遺跡があることが改めて確認された。これにより、愛鷹山麓における旧石器・縄文時代の理解が一層進むと考えられる。

## (2)歴史的環境

本遺跡の所在する裾野市域は、愛鷹山東麓の緩やかな傾斜地、箱根山系との間の平地、同山系の枝尾根など地形の変化に富み、多くの遺跡が築かれてきた。裾野市域の旧石器時代・縄文時代の遺跡を中心にして、近隣の遺跡も取り上げながら概観する。

**旧石器時代** 愛鷹山麓での人間の営みは3万年以上前まで遡ることができる。中でも、愛鷹山東南麓における旧石器時代の遺跡調査の嚆矢となったのは、沼津市に所在する休場遺跡である。休場遺跡の調査は1964年に実施され、黄褐色のローム層から細石刃や2組の石突い炉が検出された。旧石器時代の炉跡は当時の日本では初めての発見であり、検出層位であるこの黄褐色土層は休場層と呼称されるにいたった。その後、旧石器時代の遺跡として全国で初めて国指定史跡となった。

裾野市域の旧石器時代の遺跡は、愛鷹山麓の周辺市町と比較しても発見例が少なく、長らく不明確な状況が続いていた。しかしながら、第二東名建設事業に伴う発掘調査によって、次第に明らかになりつつある。裾野市内では、調査報告書が刊行された遺跡として棚返遺跡・今里遺跡(No153・153-2地点)、

千福南山Ⅲ西遺跡(No148-2地点)、佛ヶ尾遺跡(No147地点)、下ノ大窪遺跡(No146地点)、老平遺跡(No145地点)、塚松遺跡・入ノ洞B遺跡・内野山V遺跡(No144・144-2・144-3地点)などがある。主要な旧石器時代の出土遺物・遺構として、入ノ洞B遺跡では第Ⅳ～V黒色帯層において、約2万9千年前のものと比定される局部磨製石斧が出土している。また、塚松遺跡では第Ⅲ黒色帯で26基の陥穴とされる土坑が検出されている。旧石器時代の陥穴は、愛鷹山・箱根山麓で近年多く発見されており、昆蟲研究の最重要資料となることが期待される。また、長泉町の富士石遺跡(No142地点)では石器集中地點より垂飾が出土し、旧石器時代のペンダントとして話題となった。

**縄文時代** 愛鷹山麓では多数の縄文時代の遺跡が確認されている。遺跡の数は早期に増加し前期には一時的に減少する。中期に再びその遺跡数を増やすが、後期から晩期にかけてはさらに減少する。

愛鷹山麓の草創期遺跡の多くは南麓に位置する沼津市に存在する。一例を挙げると清水柳北遺跡、住居跡が検出された葛原沢第Ⅳ遺跡、尾上イラウネ遺跡などである。裾野市域においては、富沢内野山Ⅰ西遺跡で草創期のものと考えられる土器片が土坑や集石とともに検出された。

早期には遺跡数が急激に増加し、その傾向は早期後半で顕著となる。早期前半の遺跡からは草創期の流れをひく駿豆地方独特の縄文と撚糸文を持つ土器が見られる。裾野市域の当該期の遺跡としては、撚糸文土器を出土する千福小杉平第二遺跡や老平遺跡(No145地点)などが挙げられる。後半に入ると関東系の条痕文土器や、それに併行する在地の土器が多くみられ、胎土に纖維を混入させる手法が目立つようになる。裾野市域では前述の清水柳北遺跡を指標とする清水柳E類や関東系の打越式土器といった土器の出土が目立つ。特に後者は本遺跡の南に位置する佛ヶ尾遺跡より多量に出土した。

前期は遺跡が減少する時期である。該期の遺跡には沼津市の清水柳北遺跡、長泉町鉄平遺跡など木島式土器を伴うものが検出された。前期後半では諸磯式土器を伴う遺跡も検出され、裾野市域では細野沢遺跡、入ノ洞B遺跡(No144-2地点)、葛山大端ヶII遺跡(No151地点)で諸磯式期の住居跡が確認されている。

中期は再び遺跡数が増加するも、裾野市域では中期後半の遺跡が目立つ。注目すべき遺跡・遺物として、尾畠遺跡出土の額面把手付土器やヒスイの大珠、またヒスイの大珠が収められていたとされる大型土器、大畑熊野神社に伝わる土偶の頭部、細山遺跡近辺で採取された香炉形土器などは稀少な遺物である。

後期、晩期になると遺跡数は再び激減する。これまで裾野市域における明確な晩期の資料は検出されていない。また、弥生時代の遺跡も少なく、カワゴ平バミスや仙石火山砂礫噴出等の影響で、農耕生活を営むには制約が多かったと考えられる。

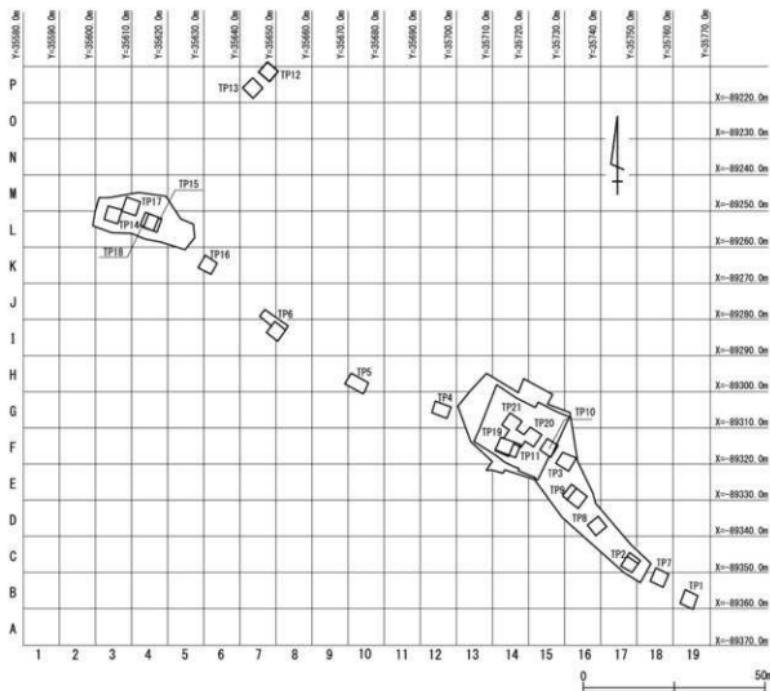
第2章 細沢遺跡

## 第1節 調査の概要

## 1 遺跡の概要

愛鷹連峰の一つ、位牌岳から南東に延びる丘陵。この丘陵は、標高300m付近のところで東西に延び、緩斜面の舌状台地を形成している。細沢遺跡はこの舌状台地の端部に立地し、遺跡の南北は小さな沢によって分断されており、細尾根を形成している。細尾根上には、標高270m付近で小規模で傾斜のゆるやかな谷部を尾根上に形成し、起伏のある地形を呈する。

この丘陵上に、東京急行電鉄株式会社によって第一期高原都市計画が立案された。現在の千福ニュータウンの開発である。この開発に先立ち、昭和49年より裾野市教育委員会によって随時調査が行われた。調査の結果、千福市場平第一遺跡、同第二遺跡、小杉平第一遺跡、同第二遺跡、細野沢遺跡が発見された。特に細野沢遺跡においては住居址5軒が検出され、そのうち一軒の住居跡内から多くの柱穴が検出された。このことから住居の建て替えが行われたことが伺え、いくつかの時期にわたって人々が生活していたことが明らかとなった。裾野市が刊行した「裾野市千福 細野沢 小杉平第1・第2 市場平第1・



第3図 細沢進跡 テストビット及びグリッド配置図

第2遺跡発掘調査報告書」(芹沢他1982)では、この丘陵は「千福遺跡群」と称され、縄文時代遺跡群と認識されるに至った。また、「平」という周辺遺跡の地名からも地勢がうかがえるが、戦前・戦後を通じて地元の人々はこの丘陵を開墾し、食糧増産に励んだと伝えられている。昭和33年に要部修正測量を施した地形測量図(地理調査所)では、付近一帯は広葉樹林と針葉樹林が植生している。また、小型自動車道も通っており、手つかずの山林ではなかったと想定される。

## 2 調査に至る経過

細沢遺跡の確認調査は平成16年4月から同年8月の期間で行った。事前に仮設進入路を設置したが、こう配が急なため、進入路上の軟弱地盤箇所の補強を行なながらの設置となった。遺跡主要部の細尾根上に、21ヶ所のテストピット(TP 1～21)を設定した。テストピットは南東から北西に向かってTP 1、TP 2、TP 3…と設定した。平成16年4月19日より重機による表土除去を開始した。

表土以下の掘削は人力にて行ったが、中間層の掘削には適宜重機を用いた。ほとんどのテストピットからは、遺構・遺物は検出されなかつたが、TP11・TP14・TP17・19～21から縄文・旧石器時代の遺構・遺物が検出されたため、周開を拡張した。拡張の結果、尾根上の東西に遺構分布域が確認された。そのため、便宜上拡張区を東区と西区に分類し、TP11・TP19～21を含む拡張範囲を東拡張区、TP14・17を含む拡張範囲を西拡張区とした。掘削に関する業務は、セリザワ建設株式会社に委託した。

## 3 調査の方法

改正前の日本測地系を用い、國土平面直角座標系 $X = -89370.0, Y = 35580.0$ 上を(A, 1)として、X軸方向(南から北)にA、B、Cの順にアルファベット、Y軸方向(西から東)に1、2、3と数字を付し遺跡全体に10m方眼を設定、グリッドとした。写真記録撮影は6×7判(モノクロ、リバーサル)と35mm(カラー、モノクロ、リバーサル)を組み合わせて行った。なお、測量に関する業務は、大成エンジニアリング株式会社に委託した。

## 4 資料整理と報告書作成

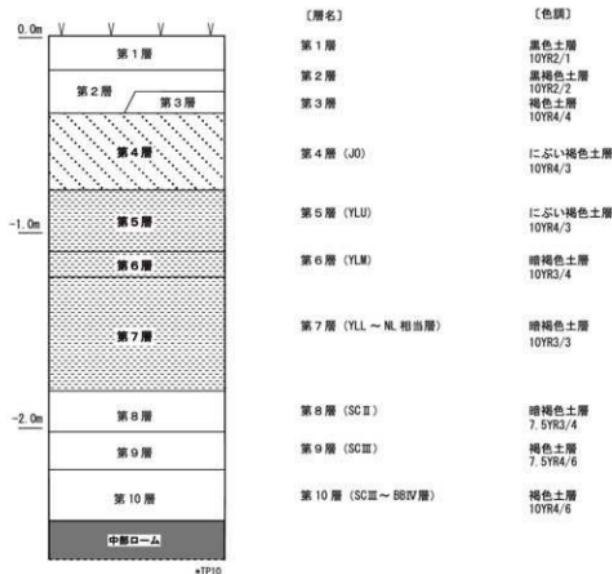
基礎整理作業 平成17年度中から、基礎整理作業を開始した。調査が終了した直後より、土器・石器・礫は洗浄後に遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の石器については、薬品処理(PARALOID B-72、ワッカ OH-100)によって、劣化延長処理を施した。

**本整理作業** 平成24年5月、本格的な整理作業開始に伴い、石器は調整・加工されているものを中心にして実測図を作成した。黒曜石については縄文時代の石器の調整・加工が認められるものを選別し、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏に依頼して、产地推定分析を行った。また土器についても、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。土器の所見については沼津市文化財センターの池谷信之氏・小崎晋氏にご教示いただいた。報告書の作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。遺構図面に関しては、手実測図とシステムデータを統合して作業を行った。また、調査現場で用いたトータルステーションの記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをAdobe Illustrator CS3に取り込み、図版の編集を行った。なお、資料整理作業については株式会社パソナに業務委託して実施した。

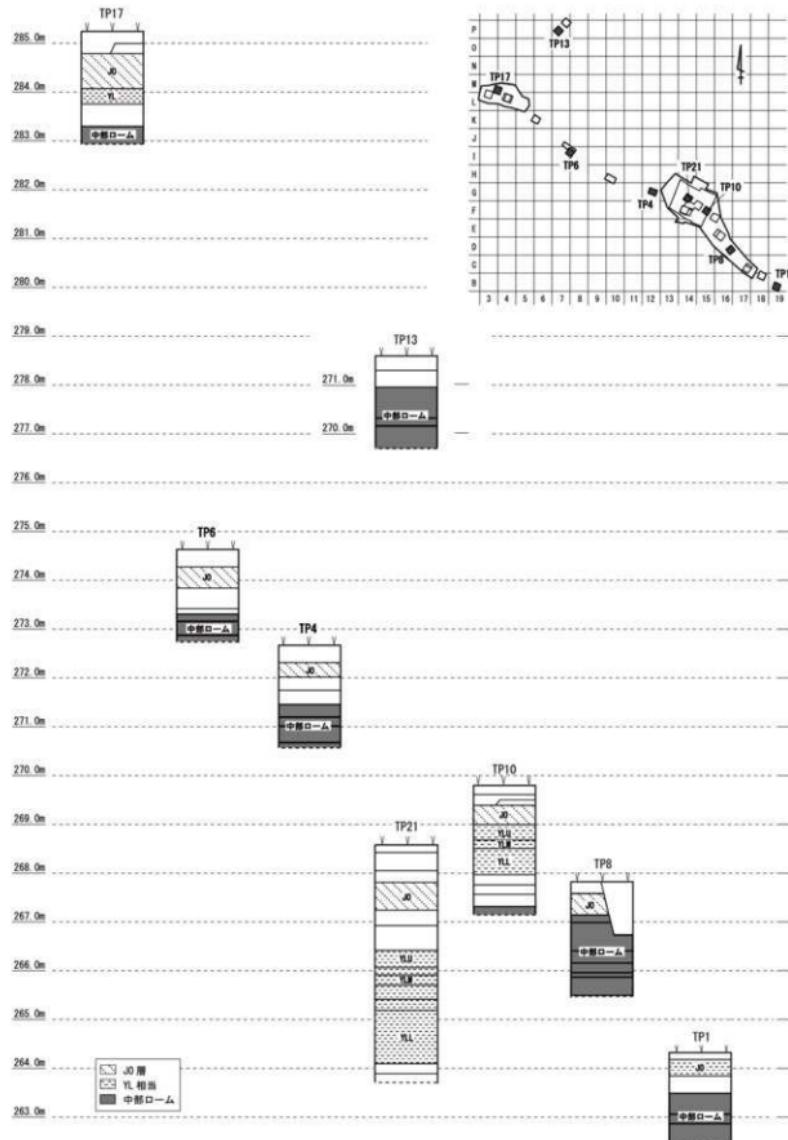
各テストピットの土層堆積状況はやや不明瞭であり、良好な堆積状況を示していない。本報告では堆積が比較的良好なテストピット10の層位を基本層序とした。

- 第1層 黒色土層 黒褐色の腐食土層である。縮まりが弱く、きめはやや粗い。表土。
- 第2層 黒褐色土層 縮まりが弱く、きめがやや細かい。黒色土層に相当し、仙石スコリアを少量含む。
- 第3層 褐色土層 縮まりはやや弱く、きめが粗い。仙石スコリアとカワゴ平バミスが混在する。
- 第4層 にぶい褐色土層(JO) 縮まりやや強く、きめはやや粗いが、きめ細かい地点も存在する。暗褐色土層(AN)、栗色土層(KU)、富士黒土層(FB)に相当する層である。
- 第5層 にぶい褐色土層(YLU) 縮まりやや強く、きめ細かい。
- 第6層 暗褐色土層(YLM) 縮まりやや強く、きめやや細かい。
- 第7層 暗褐色土層(YLL～NL相当層) 縮まりやや強く、きめやや粗い。不規則に混在する。
- 第8層 暗褐色土層(SC II) 縮まり強く、きめ細かい。始良丹沢火山灰(AT)が確認される。
- 第9層 褐色土層(SC III) 縮まり強く、きめ細かい。1～2cmの黒色スコリアを含む。
- 第10層 褐色土層(SC III～BB IV相当層) 縮まり強く、きめ細かい。

テストピットごとに違いはあるが、全体を通して層序が明確なテストピットは少ない。第5図の土層堆積状況では、テストピットごと土層堆積が大きく異なっており、ほぼ表土直下に中部ロームが堆積し



第4図 緑沢遺跡 基本土層図



第5図 細沢遺跡 土層堆積状況

ているもの、富士黒土層(FB)や休場層(YL)、休場層直下黑色帶(BB0)などが混在している層などが多い数みられた。

また、土層の分類が難しいものが多く、明確な識別ができるないものは相当層とした。中でも第4層(JO)は、暗褐色土層(AN)、栗色土層(KU)、富士黒土層(FB)が明確に分類できないため、便宜上縄文時代の包含層に相当することからJO層とした。

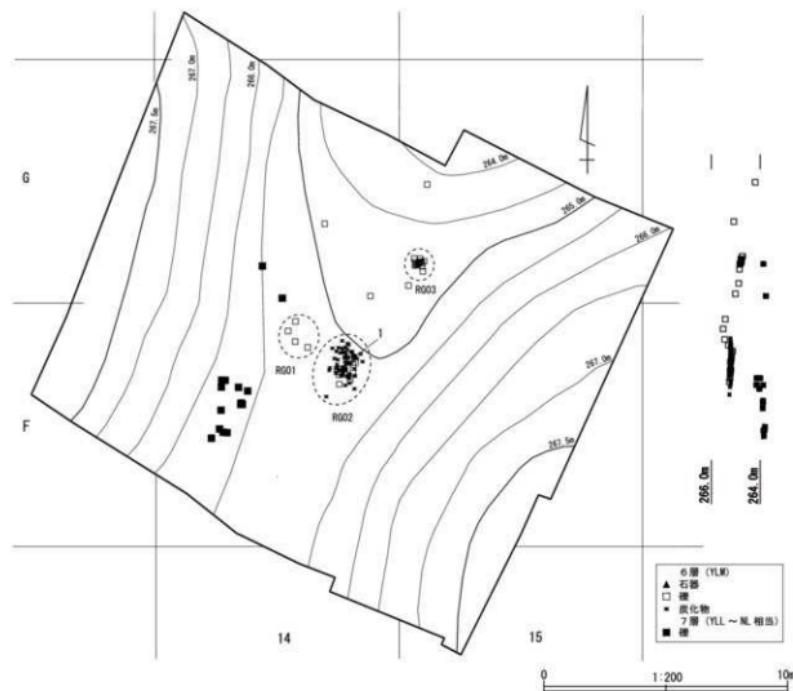
### 第3節 遺構と遺物

#### 1 旧石器時代の遺構と遺物

第5～第7層からは石器1点、礫49点が検出された。特に礫が集中して検出された3ヵ所を礫群として扱った。出土地点はいずれも東拡張区、標高265.0m付近の谷部である。

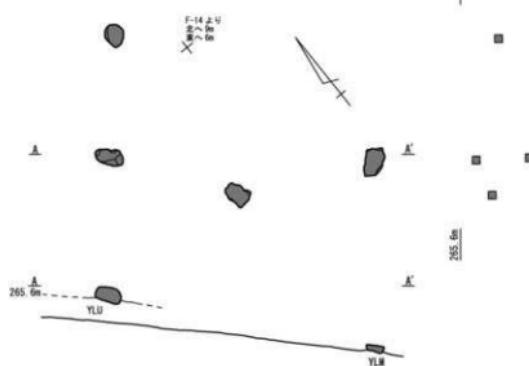
##### 1号礫群(RG01・第7図)

F-14グリッドの第6層(YLM)から検出され、約1m四方に4点の礫が出土した。礫は散在している。遺構は谷部の平坦な部分から検出されており、2号礫群(RG02)が東およそ1mに隣接している。石材は玄武岩1点、輝石安山岩3点であった。4点ともに赤化が確認できた。

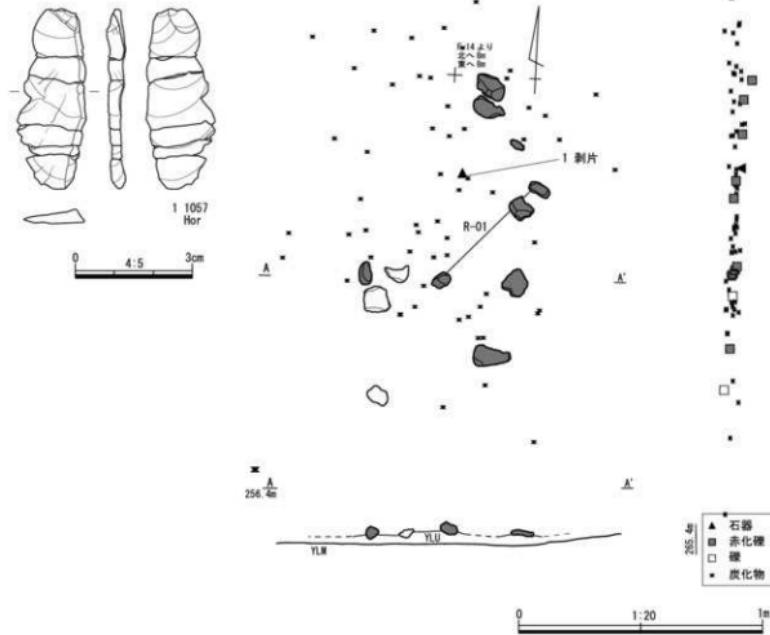


第6図 細沢遺跡 旧石器 全体図

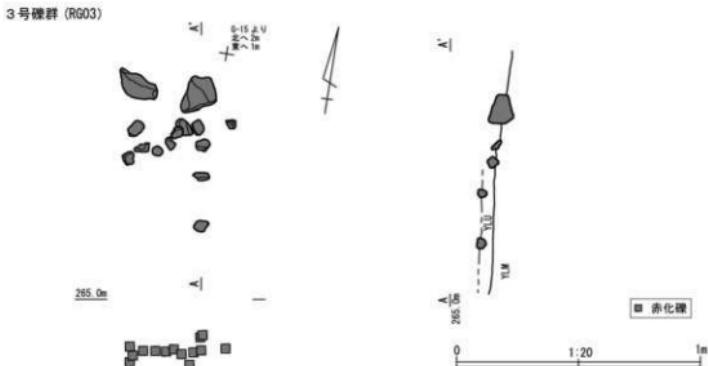
1号縦群 (RG01)



2号縦群 (RG02)



第7図 細沢遺跡 旧石器 1号・2号縦群



第8図 細沢遺跡 旧石器 3号礫群

**2号礫群(RG02・第7図)**

F-14グリッドの第6層(YLM)から検出され、約1m四方に12点の礫が多量の炭化物とともに出土した。立地は1号礫群(RG01)と同様である。長径10~15cm前後の礫が散在している。内訳は玄武岩3点、輝石安山岩9点であった。12点の礫のうち9点に赤化が確認できた。割れた扁平礫・角礫が多く出土している。

**剥片(第7図)**

2号礫群(RG02)から出土したホルンフェルス製の剥片である。2号礫群のはば中央、各礫から約30cm程度離れた場所で出土した。上面を打面として連続剥離して得られた縦長剥片である。表面の風化により詳細な観察は困難である。出土時に6片に分かれていたが、整理作業時に接合された。

**3号礫群(RG03・第8図)**

G-15グリッドの第6層(YLM)から検出され、約50cm四方に13点の礫、20cmほど離れて1点の礫、合計14点が出土した。礫群は北東の谷頭部付近に立地している。約20cmの大礫2点と、拳大の小礫12点で構成されている。2つの大礫が最も谷底に近く、小礫は山頂側に比較的まとまっている。内訳は玄武岩2点、輝石安山岩12点であった。14点すべてに赤化が確認できた。その他、第6層(YLM)から4点の礫(内訳：輝石安山岩3、多孔質安山岩1)、TP21の第7層(YLL~NL相当層)から15点の礫が出土した。

第2表 細沢遺跡 旧石器 磕群組成表

遺構名	構成礫			石材		その他 出土遺物
	総数	総重量 (g)	平均重量 (g)	An(Py)	Ba	
1号礫群	4	2429.0	607.3	1	3	
2号礫群	12	4389.3	365.5	2	10	剥片1点 炭化物61点
3号礫群	14	4331.0	309.4	8	6	

## 第3表 細沢遺跡 旧石器 標一覧

[標群]

標群名	検出 層位	遺物番号	石材	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	堆合
1号縦群	YLM	1154	An(Py)	F-14	11.3	8.9	3.9	485.0	
1号縦群	YLM	1151	Ba	F-14	9.8	7.7	5.3	455.0	
1号縦群	YLM	1152	Ba	F-14	12.3	7.3	6.5	624.0	
1号縦群	YLM	1153	Ba	F-14	11.3	9.9	7.3	865.0	
2号縦群	YLM	1141	An(Py)	F-14	8.1	4.3	1.9	65.0	
2号縦群	YLM	1149	An(Py)	F-14	11.3	10.6	4.2	709.0	
2号縦群	YLM	1139	Ba	F-14	14.9	9.9	7.1	940.0	
2号縦群	YLM	1140	Ba	F-14	14.8	8.2	6.0	656.0	
2号縦群	YLM	1142	Ba	F-14	10.0	5.4	4.8	282.0 R-01	
2号縦群	YLM	1143	Ba	F-14	9.3	7.3	3.2	265.0	
2号縦群	YLM	1144	Ba	F-14	10.2	9.4	3.0	270.0	
2号縦群	YLM	1145	Ba	F-14	14.8	9.0	3.4	380.0	
2号縦群	YLM	1146	Ba	F-14	8.3	5.8	4.7	255.0 R-01	
2号縦群	YLM	1147	Ba	F-14	10.3	7.5	3.9	160.0	
2号縦群	YLM	1148	Ba	F-14	9.1	5.8	4.2	244.0	
2号縦群	YLM	1150	Ba	F-14	9.0	6.5	2.4	160.0	

標群名	検出 層位	遺物番号	石材	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	堆合
3号縦群	YLM	1125	An(Py)	G-15	16.4	12.4	9.8	2150.0	
3号縦群	YLM	1126	An(Py)	G-15	18.2	9.6	5.8	1117.0	
3号縦群	YLM	1127	An(Py)	G-15	7.5	4.6	2.4	119.0	
3号縦群	YLM	1128	An(Py)	G-15	5.9	5.8	2.5	78.0	
3号縦群	YLM	1130	An(Py)	G-15	4.3	4.0	3.6	65.0	
3号縦群	YLM	1133	An(Py)	G-15	6.9	6.2	1.9	107.0	
3号縦群	YLM	1134	An(Py)	G-15	6.9	5.1	2.6	127.0	
3号縦群	YLM	1136	An(Py)	G-15	4.2	4.1	2.3	43.0	
3号縦群	YLM	1129	Ba	G-15	6.6	3.7	3.6	78.0	
3号縦群	YLM	1131	Ba	G-15	6.0	4.7	3.5	102.0	
3号縦群	YLM	1132	Ba	G-15	5.2	4.6	3.3	66.0	
3号縦群	YLM	1135	Ba	G-15	7.3	4.7	3.4	130.0	
3号縦群	YLM	1137	Ba	G-15	7.6	3.6	2.3	66.0	
3号縦群	YLM	1138	Ba	G-15	6.1	4.9	3.3	83.0	

[YLL～NL相当出土品]

TP	検出 層位	遺物番号	石材	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
TP21	YLL～NL相当	981	Ba	G-14	5.0	3.5	3.1	54.0
TP21	YLL～NL相当	982	An(Py)	G-14	10.3	6.4	4.3	254.0
TP21	YLL～NL相当	983	Ba	F-14	3.8	2.4	2.0	24.0
TP21	YLL～NL相当	984	Ba	F-14	3.8	2.2	1.6	15.0
TP21	YLL～NL相当	985	An(Py)	F-14	3.1	2.2	0.8	9.0
TP21	YLL～NL相当	986	Ba	F-14	3.1	2.4	1.4	10.0
TP21	YLL～NL相当	987	Ba	F-14	3.5	3.2	2.5	30.0
TP21	YLL～NL相当	988	An(Py)	F-14	4.3	2.8	2.7	33.0
TP21	YLL～NL相当	989	An(Py)	F-14	3.7	3.1	1.4	15.0
TP21	YLL～NL相当	990	Ba	F-14	4.1	3.8	2.7	54.0
TP21	YLL～NL相当	991	FG	F-14	3.2	2.5	2.4	24.0
TP21	YLL～NL相当	992	Ba	F-14	2.8	2.8	1.8	20.0
TP21	YLL～NL相当	993	Ba	F-14	3.3	2.0	1.5	11.0
TP21	YLL～NL相当	994	An(Py)	F-14	3.5	1.8	1.3	10.0
TP21	YLL～NL相当	995	FG	F-14	3.3	2.3	1.0	10.0

## 2 繩文時代

### (1) 遺構

東拡張区から集石遺構が2基、土坑が3基、西拡張区からは土坑が1基検出された。これらは検出層位から、縄文時代の遺構と判断した。それぞれの立地は、東拡張区は標高265.0m付近の谷部に位置し、西拡張区は標高285.0m付近の尾根頂部に位置しており、両者の高低差は20mほどある。なお、土坑の名称は現地調査時のものを踏襲したため、欠番が生じている。

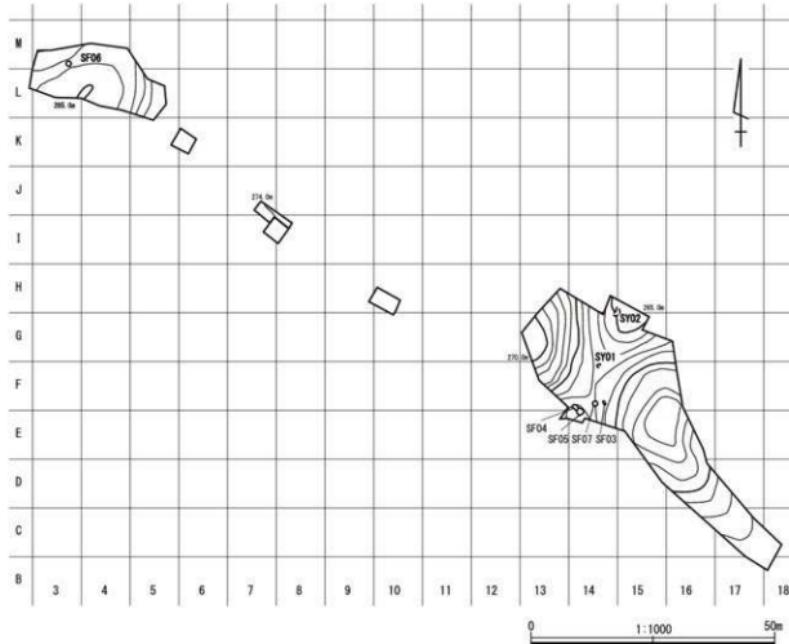
#### 1号集石(SY-01・第10図)

F-14グリッドの第4層(JO)から検出された。検出された地形は谷部が最もくぼんでいる部分である。集石は谷のほぼ中央、平坦部で検出され、礫総数は28点であった。約50cm四方に礫が集中している。赤化礫が中心だが、通常の礫もわずかに出土している。

#### 2号集石(SY-02・第10図)

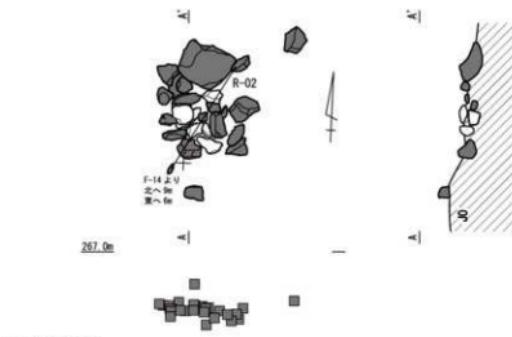
G-14・H-14グリッドの境目の第4層(JO)に位置し、北東の谷頭部付近で検出された。約1m四方に礫が集中し、長径20cmの大礫が多い。礫のまわりには炭化物と焼土粒が分布している。第5層直下約25cmにも炭化物が分布し、焼土粒が確認された。礫総数は20点であった。内訳は赤化礫が20点、そのうち台石が1点出土している。

その他、第4層(JO)から礫として出土したものが計40点であった。内訳は輝石安山岩が29点、玄武

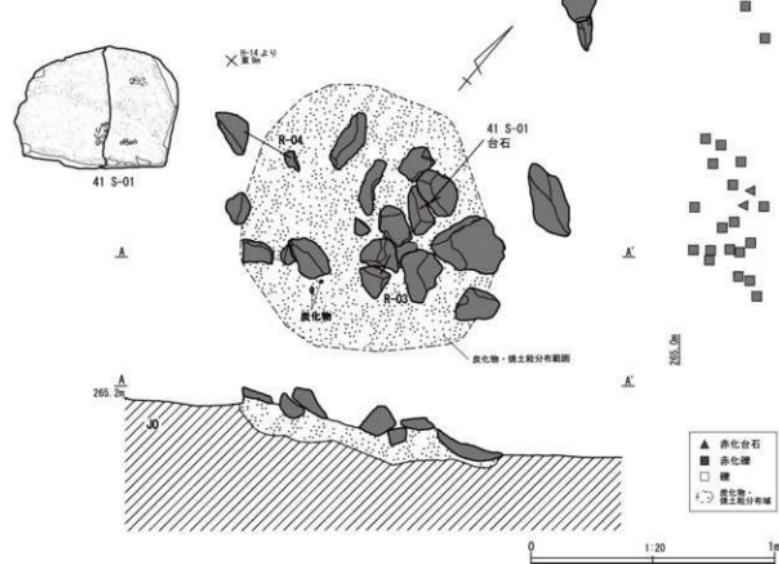


第9図 細沢遺跡 縄文 遺構全体図

1号集石(SY01)



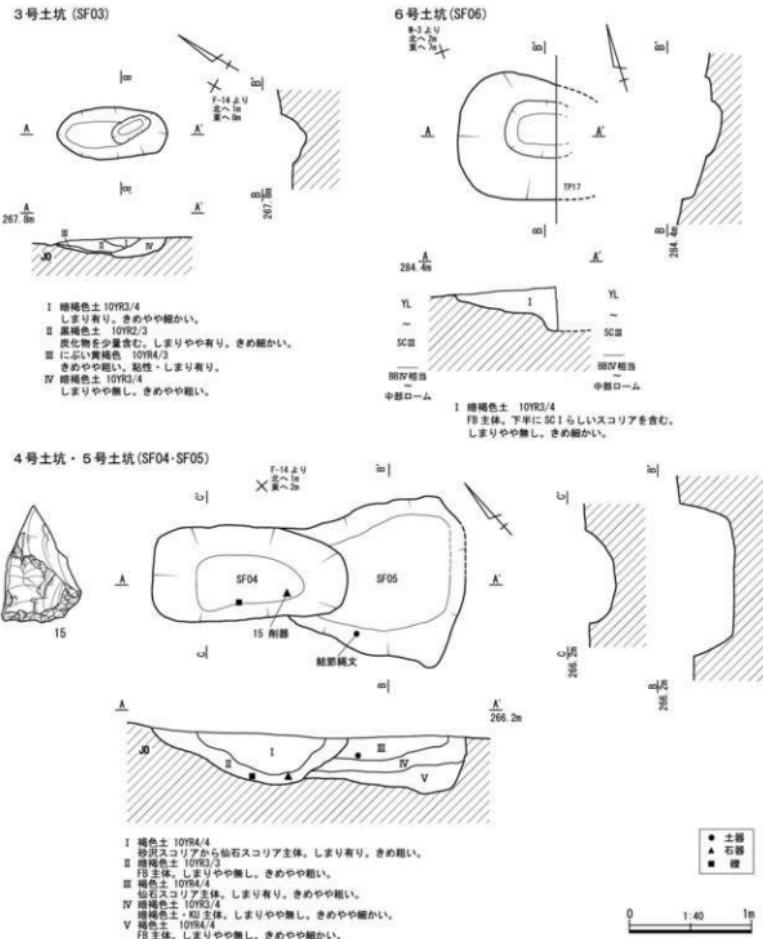
2号集石(SY02)



第10図 細沢遺跡 案文 1号・2号集石

第4表 細沢遺跡 案文 集石組成表

遺構名	検出層位	グリッド	構成率		石材			赤化比率(%)	分布範囲		その他遺物	
			総数	総重量(g)	An(Py)	VAn	VBa		長径(m)	短径(m)		
1号集石	JO	F-14	28	7450.0	12		14	2	76.9	0.90	0.54	
2号集石	JO	G-14.15 H-14.15	20	30011.0	8	1	9	2	100.0	1.87	1.20	炭化物・焼土分布 台石 S-01



第11図 細沢遺跡 捕文 土坑1

岩が8点、火山疊凝灰岩が3点であった。

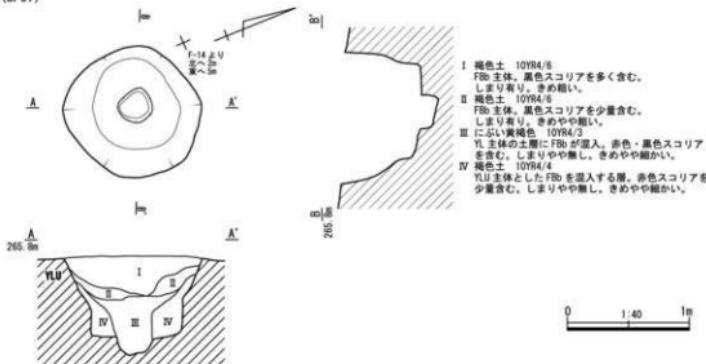
### 3号土坑(SF-03・第11図)

F-14グリッドの第4層(JO層)に位置し、テストピット11から検出された。開口部は楕円形をなし、長径0.91m、短径0.40m、深さは16cmであった。7号土坑が西約1mに近接している。他の土坑に比べ、掘り込みが浅い。

### 4号土坑(SF-04・第11図)

E・F-14グリッド境の第4層(JO)に位置し、5号土坑(SF-05)を切っている。開口部は楕円形状を

## 7号土坑(SF07)



第12図 細沢遺跡 繩文 土坑2

なしている。土坑の大きさは開口部長径が1.25m、短径が0.77m、深さは確認面より41cmであった。標高266.0m付近、南西の谷頭部に位置している。土坑内から縄1点、削器1点(第24図15)が出土している。

## 5号土坑(SF-05・第11図)

4号土坑(SF-04)と立地・層位は同じで4号土坑に切られている。開口部は不整形をしている。土坑の大きさは開口部長径が1.33m、短径が1.26m、深さは確認面より47cmであった。土坑内から縄文時代前期・諸式とされる土器片1点(第II群)が出土している。

## 6号土坑(SF-06・第11図)

M-3グリッドの第5層(YLU)から検出された。テストピット17の掘削によって削られてはいるものの、開口部は梢円形と考えられる。開口部長径は1.08m、短径が0.96m、深さは36cmであった。標高284.0m付近に位置し、調査区内の最高所となる斜面より検出された。なお検出面が休場上層であるが、本来の掘り込みは他の遺構と同じように基本土層の第4層中にあったと考えられる。

## 7号土坑(SF-07・第12図)

F-14グリッドの第5層(YLU)から検出された。開口部は円形である。開口部長径が1.14m、短径が1.08m、深さは82cmであった。4号・5号土坑の北東約5mに位置し、ほぼ谷底に立地している。土坑中央はくぼむ。6号土坑と同様、検出面が休場上層であるが、本来の掘り込みは他の遺構と同じように基本土層の第4層中にあったと考えられる。

第5表 細沢遺跡 繩文 土坑一覧

遺構名	グリッド	検出層位	時期	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	出土遺物
3号土坑	F-14	JO	縄文	梢円形	0.91	0.40	16	
4号土坑	E-F-14	JO	縄文	梢円形	1.25	0.77	41	削器1、櫛1
5号土坑	E-F-14	JO	縄文	不整形	1.33	1.26	47	土器1
6号土坑	M-3	JO	縄文	梢円形	(1.08)	0.96	36	
7号土坑	F-14	YLU	縄文	円形	1.14	1.08	82	

**(2) 遺物**

**土器(第16図・17図)** 縄文時代の土器は、早期末頃から中期前半にかけての土器が64点出土したが、土器小片が多く、明確な時期判別は難しいものが多い。文様・胎土等から以下の4類に分類し、21点を図示した。

**第Ⅰ群 条痕調整を施す土器****第Ⅱ群 竹管文・結節縄文を施す土器****第Ⅲ群 幅広の隆帯を貼付した土器****第Ⅳ群 その他****1類 隆帯と縄文が施された土器****2類 縄文が施された土器****3類 沈線が施された土器****4類 無文の土器****第Ⅰ群 条痕調整を施す土器(第16図1・2)**

1・2は土器の内面に横位条痕調整が施されている。土器表面の施文や胎土の含有物から判断すると同一個体の可能性が高い。1は口縁部片である。口縁部は直線的に開く。口唇部には面を持ち一定の間隔をあけて斜位に刻みを入れ、突起を貼付する。表面には無節L縄文を縦位に施文している。2は胴部片で、直線的に開く。内面に接合痕が一部残存している。残存部位から推定すると完形のおよそ4分の1と思われる。無節L縄文は部位によって縦位と斜位を用いており、施文方向が異なる。1・2とも、白色粒子を多く含む。

**第Ⅱ群 竹管文・結節縄文を施す土器(第16図3~7)**

3~6は施文状況、胎土および器厚から同一個体の胴部破片である可能性が高い。3は直線的に開く。RL結節縄文を横位に施した後、縦位2ヶ所に竹管文を施文する。4は3と同様に直線的に開き、竹管文を有する。5・6は直線的に開く、RL結節縄文のみの施文である。7は胎土および色調から3~6とは別個体の口縁部と想定した。丸みを帯びた口唇部はやや外傾し、突起が一つ確認できる。施文は半載竹管もしくは櫛歯状の工具で押し引いた文様が2条口縁部に認められる。施文は、図中左が深く右が浅いため、左から右に押し引いたことが推測される。細かな白色粒子と雲母を多く含む。

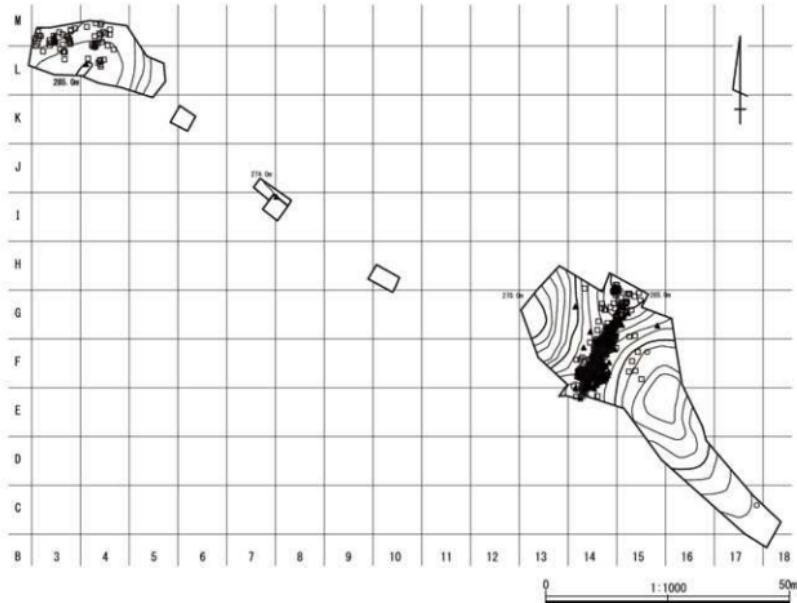
**第Ⅲ群 幅広の隆帯を貼付した土器(第16図8・9)**

8・9とともに胎土と隆帯から同一個体と想定した。双方ともに磨滅が著しい。8は口縁部から胴部にいたる部分の破片と推定し、直線的に開く。幅1.7cmほどの貼付隆帶上部の口縁部外面には、半載竹管を用いて幅0.5cmほどの押引文がV字状に施されている。貼付隆帶上端部に調整痕がみられるが、下端部は貼付時のままで粗雑である。内面は主に横位に擦痕状の調整が残る。9は口縁部付近の破片と想定した。隆帶貼付部分で若干内側に湾曲している。8・9とも胎土に気泡状の小孔が確認でき、やや砂質でもろい。

**第Ⅳ群 その他****1類 隆帯と縄文が施された土器(第17図10~12)**

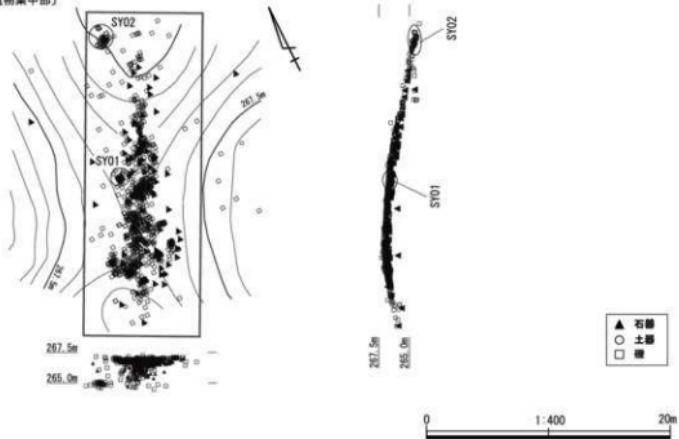
10は胴部破片と推定される。0.5cmほどの隆帯を一条貼付している。11は胴部破片、もしくは頸部破

第3図 遺構上遺物

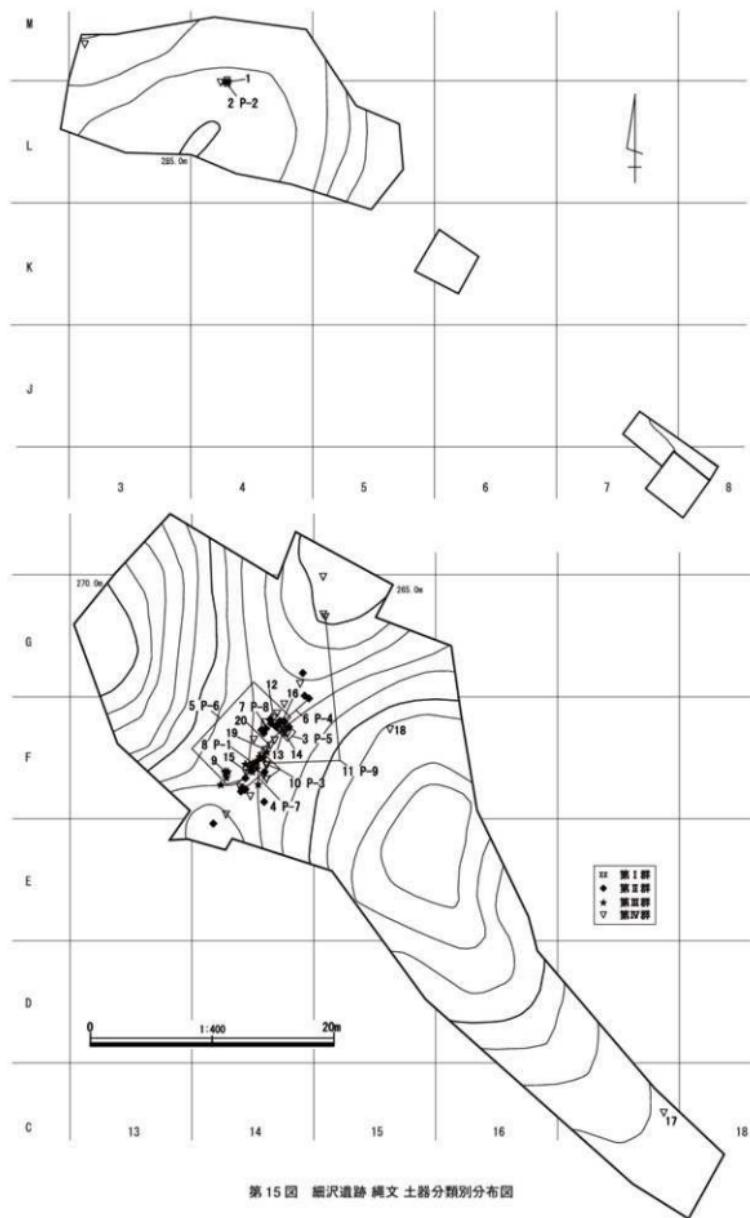


第13図 細沢遺跡 純文 遺物出土状況

〔遺物集中部〕

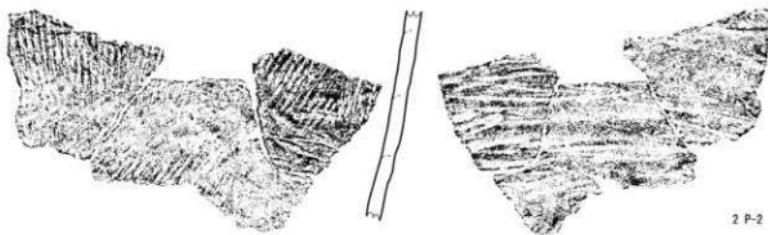
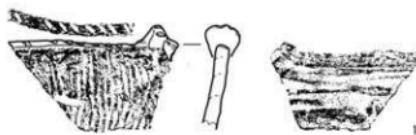


第14図 細沢遺跡 純文 遺物集中部



第15図 細沢遺跡 繩文 土器分類別分布図

(第I群)

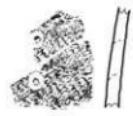


2 P-2

(第II群)



3 P-5



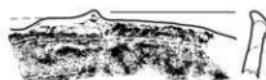
4 P-7



5 P-6



6 P-4



7 P-8

(第III群)



8 P-1

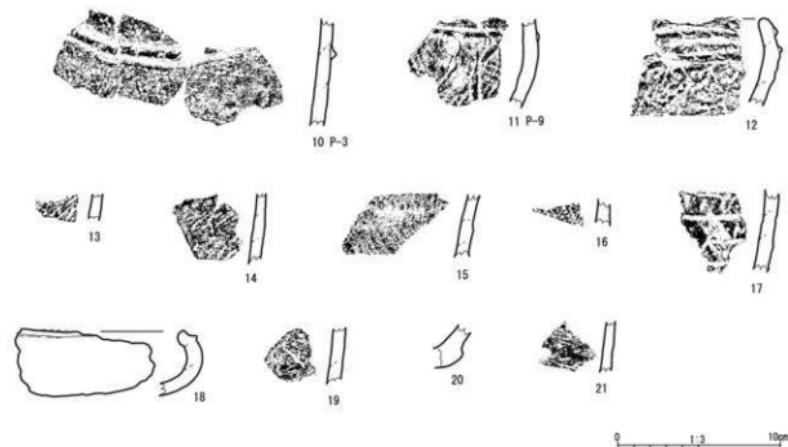


9

第16図 細沢遺跡 織文土器 1



(第IV群)



第17図 細沢遺跡 繩文土器 2

片と想定される。内湾して立ち上がる。0.3cmほどの紐状の隆帯を一条貼付し、同様の隆帯を弧状に貼付してLR縄文を充填している。12は口縁部破片で、内湾して立ち上がる。2条の隆帯を平行に貼付し、貼付時の調整は隆帶上部にのみ見られる。隆帶上には1cmほどの間隔をあけて、斜位に刻みが入れられている。内面には、わずかに横位調整が確認できる。器厚がやや厚く、雲母・石英を含む。原体不明。

#### 2類 縄文が施された土器(第17図13～16)

13・14の部位は不明であるが、L縄文を横位に施す。胎土・色調が類似し、少量の纖維を含むことから同一個体と考えられる。ただし、14の施文は無節の押付文の可能性もある。15はL縄文を横位に施し、直線的に開く。原体不明。16は小破片だが、LR縄文が横位で施文されている。

#### 3類 沈線が施された土器(第17図17)

17は直線的に開き、4条の沈線がほぼ等間隔で横位に施されている。胎土は白色の砂粒を多量に含む。

#### 4類 無文の土器(第17図18～21)

18は口縁部であり、内湾して立ち上がる。口唇部は強いナデによる調整がなされている。器面には一部ススが付着している。内外面にナデ状調整痕がある。白色粒子を多量に含む。19は摩耗が著しく施文の有無が判別できないため無文とした。白色の砂粒を多量に含む。20は浅鉢の屈曲部と想定される。21は内外面に明確なナデ状調整痕が確認できる。硬質な印象を受ける。

第6表 細沢跡 繩文土器観察表

図版番号	測量番号	群	組	種	型式名等	ダーピー	層位	出土	地成	色調(内)	組合	備考
										色調(外)		
第16回	1	28	I		早期束	L-I	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石。白色凹片。少量の纖維を含む。	頁	10YR 4/2 黄褐色 10YR 4/4 に赤褐色	口縁部(突起・鋸歯)、底部L-側面、内部に複数の調整孔	
第16回	2	29-33	I		早期束?	L-I+M-I	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石。白色凹片。少量の纖維を含む。	頁	SVR 5/4 に赤褐色 SVR 5/4 に赤褐色	無頭L-調文、内部に横状の調整孔	
第16回	3	666-668, 650-651	II		繩周	F-II	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石。白色凹片。少量の纖維を含む。	頁	7.5YR 4/2 に赤褐色 7.5YR 5/3 に赤褐色	EL-絆指繩文横位、内側文	
第16回	4	666-671	II		繩周	F-II	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石を含む。纖維なし。	頁	7.5YR 5/4 に赤褐色 7.5YR 5/6 明赤褐色	EL-絆指繩文横位、内側文	
第16回	5	665-672	II		繩周	F-II	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石を含む。纖維なし。	頁	SVR 5/5 明赤褐色 SVR 5/6 明赤褐色	无頭L-調文	
第16回	6	199-645	II		繩周	F-II	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石を含む。纖維なし。	頁	SVR 5/4 に赤褐色 SVR 5/6 明赤褐色	EL-絆指繩文横位	
第16回	7	638-640, 641-650	II		繩周	F-II	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石を含む。纖維なし。	頁	SVR 4/4 に赤褐色 SVR 4/6 赤褐色	口縁部(突起・溝状)、側面工具で削り込まれた痕跡	
第16回	8	600-626, 627-676	III		中間前半	F-III	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色凹片。少量の輝石・赤色岩片を含む。纖維なし。	頁	7.5YR 7/6 褐色 7.5YR 6/6 褐色	手取竹管による押しづり、底部付着上にも同様の痕跡	1
第16回	9	3	III		中間前半	F-III	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色凹片。少量の輝石・赤色岩片を含む。纖維なし。	頁	7.5YR 7/6 褐色 7.5YR 6/7 褐色	手取竹管による押しづり、底部付着上にも同様の痕跡	
第17回	10	419-663, 666	IV	I	繩文と地文。 (繩文と地文、 地文を削り付ける)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・黑色粒子・角閃石を含む。白色凹片。少量の纖維を含む。	頁	SVR 5/6 赤褐色 SVR 5/6 明赤褐色	旋打削除1条、L-調文側面付着(骨指印)	3
第17回	11	662-1069	IV	I	繩文と地文。 (繩文と地文、 地文を削り付ける)	F-IV G-5	JO	多量の石英・黄石・雲母・角閃石。多量の黑色粒子を含む。纖維なし。	頁	10YR 4/4 に赤褐色 10YR 4/4 に赤褐色	旋打削除(区域)、L-調文側面付着	9
第17回	12	637	IV	I	地文不明 (繩文と地文、 地文を削り付ける)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色凹片。少量の赤色粒子を含む。纖維なし。	頁	7.5YR 6/6 褐色 7.5YR 6/6 褐色	口縁部、2条の削み付け工具付着部。側面丸み、全体不明	
第17回	13	202	IV	2 A	地文不明 (繩文と地文)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色粒子・角閃石・白色岩片。角閃石・白色岩片を含む。	頁	7.5YR 5/4 に赤褐色 7.5YR 5/4 に赤褐色	L-調文側位	
第17回	14	654	IV	2 A	地文不明 (無頭)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・白色粒子・角閃石・白色岩片・角閃石・少量の雲母・纖維を含む。	頁	SVR 5/5 に赤褐色 SVR 5/5 に赤褐色	L-調文側位	
第17回	15	673	IV	2 B	地文不明 (その他の地文)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・白色粒子・角閃石・白色岩片を含む。纖維なし。	頁	2.5YR 5/4 に赤褐色 2.5YR 6/6 褐色	繩文側位。全体不明	
第17回	16	667	IV	2 B	地文不明 (その他の地文)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・角閃石・雲母・黑色粒子を含む。纖維なし。	頁	SVR 5/5 明赤褐色 SVR 5/6 明赤褐色	ES-調文側位	
第17回	17	12	IV	3	地文不明 (沈没)	C-IV	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色凹片・角閃石。少量の赤色粒子・角閃石・纖維を含む。	頁	SVR 6/6 褐色 SVR 6/6 褐色	沈没	
第17回	18	197	IV	4	地文不明 (無頭)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・角閃石・白色粒子・角閃石・角閃石・白色岩片・角閃石・少量の雲母・纖維を含む。	頁	7.5YR 5/4 に赤褐色 7.5YR 6/4 に赤褐色	口縁部(内側)、口縁部に剥落あり	
第17回	19	658	IV	4	地文不明 (無頭)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・白色粒子・角閃石・白色岩片・角閃石・少量の雲母・纖維を含む。	頁	SVR 5/4 に赤褐色 SVR 5/4 に赤褐色	剥落著しく質弱不明	
第17回	20	656	IV	4	地文不明 (無頭)	F-IV	JO	多量の石英・黄石・白色粒子・角閃石・白色岩片・角閃石を含む。纖維なし。	頁	SVR 5/5 明赤褐色 SVR 6/6 褐色	浅跡の屈曲部?	
第17回	21	1132	IV	4	地文不明 (無頭)	表標	JO	白色粒子。少量の石英・黄石・角閃石を含む。	頁	2.5YR 4/4 に赤褐色 2.5YR 5/6 明赤褐色	内外面にナデ状の調整板	

**石器(第20図～25図)** 縄文時代の石器は第4層(JO)から合計104点出土している。その内訳は遺構内外含め、尖頭器2点、有舌尖頭器2点、石鏃6点、削器7点、搔器2点、使用痕のある剥片4点、二次加工を施した剥片1点、石核5点、打製石斧1点、礫器1点、磨石6点、敲石3点、磨敲石3点、凹石1点、台石3点、楔形石器1点、剥片47点、碎片9点であった。そのうち主要な石器40点を図化した。

第7表 細沢遺跡 石器組成表

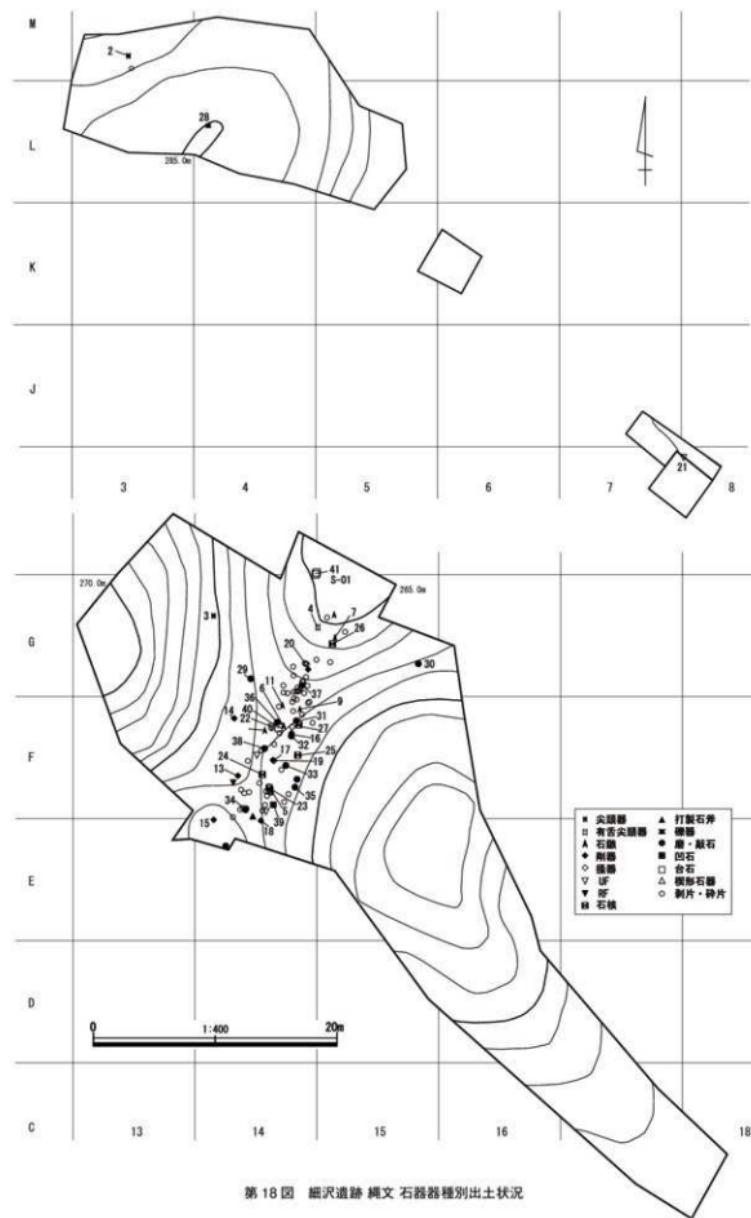
		器種															合計	
		石頭器	有舌尖頭器	石錐	削器	撲器	UF	R	F	石核	打製石斧	礫器	磨石	敲石	磨敲石	凹石	台石	楔形石器
石 材	AGKT			2														2
	KZOB			1														1
	SWHD			2	2	1	3		3									12
	WDKB	1																1
	WDTY					1		1										2
	不可等																	44
	GAm	1	1	1	3					2							2	10
	Rhy		1															1
	An(py)										1	1	6	3	1	2		14
	Ch(Bi)					1												1
M	Hor																	0
	Hori(Co)					1												1
	HFT						1											1
	Ba									1		1						2
	VBa											1	1					2
	Sh															1		1
	合計	2	3	6	7	2	4	1	5	1	1	6	3	3	1	3	147	9/104

### 尖頭器(第20図2・3)

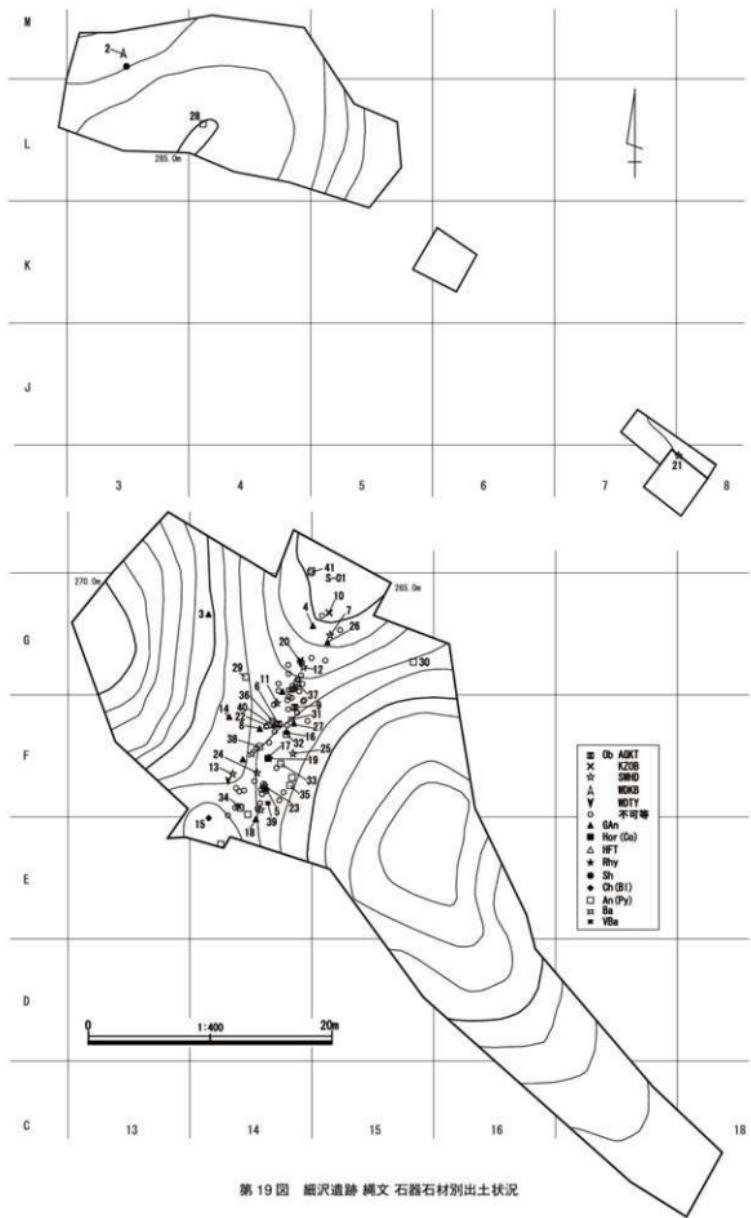
2点出土した。2点とも器体の両面に加工を施している。2は木葉形に近い形状をしており、左縁辺部は中央部から先端部にいたる間に凹みがある。そのため、左右非対称な形状となっている。表裏両面に平坦で大きな剥離加工を施して整形しており、素材剥片の剥離面がほとんど確認できないほど加工が及んでいる。表面右側縁部と同裏面に微細な剥離を施し調整している。石材は黒曜石(和田小深沢群)を使用している。3は柳葉形を呈する。両面に左右から大きな剥離加工を施し整形した後、左上方部に細かな加工を施して側縁部分を調整している。断面はカマボコ状をなしている。石材はガラス質黒色安山岩を使用している。

### 有舌尖頭器(第20図4・5)

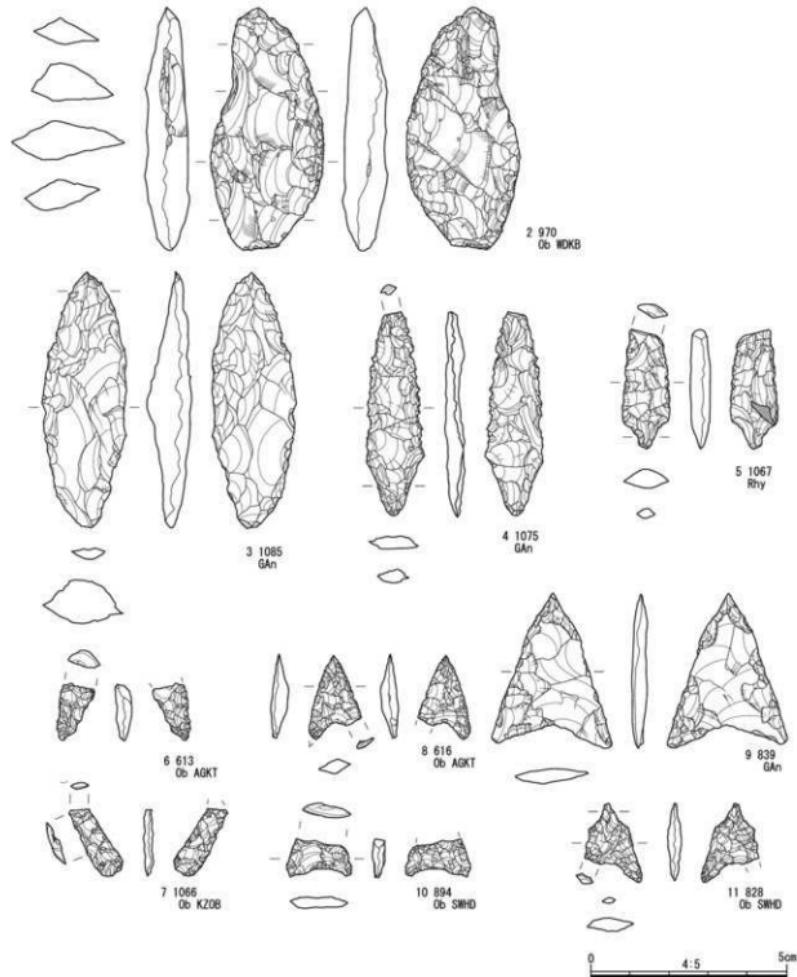
2点出土した。4は器体の表裏全面に大きな剥離を施し整形している。また、左右縁辺部を微細な押圧剥離によって鋸歯状に加工し調整している。形状は全体的に扁平かつ細身で、左右の縁辺は直線にやや近い。先端部が折損している。逆刺がやや張り出しており、左右から剥離を施して舌部を作出している。石材はガラス質黒色安山岩を使用している。5も4同様に器体の表裏全面に大きな剥離を施し整形している。舌部の縁辺は内に湾曲しており、舌部は4に比べ短い。断面はカマボコ状をなしている。先端部が折損している。石材は流紋岩を使用している。



第18図 細沢遺跡 桶文 石器器種別出土状況



### 第19図 細沢遺跡 繩文 石器石材別出土状況



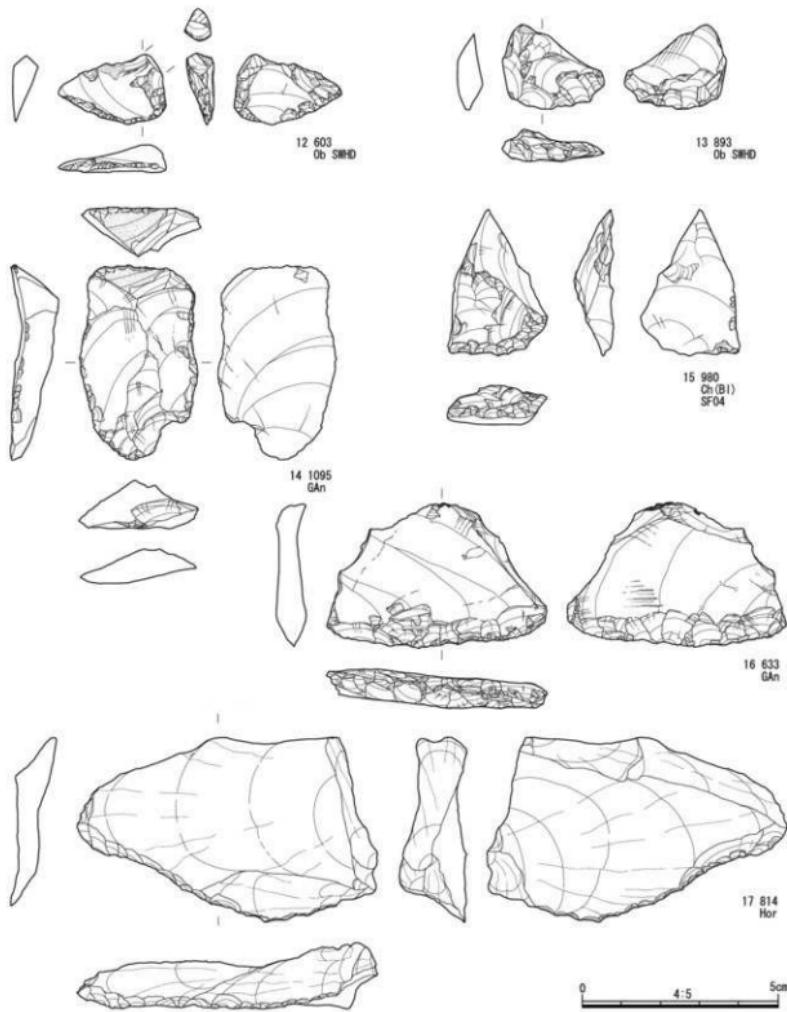
第20図 細沢遺跡 横文 石器 1

**石錐**

6点出土した。その中で形状によって3形態に分類した。

**A類：脚部の長いもの(第20図6・7)**

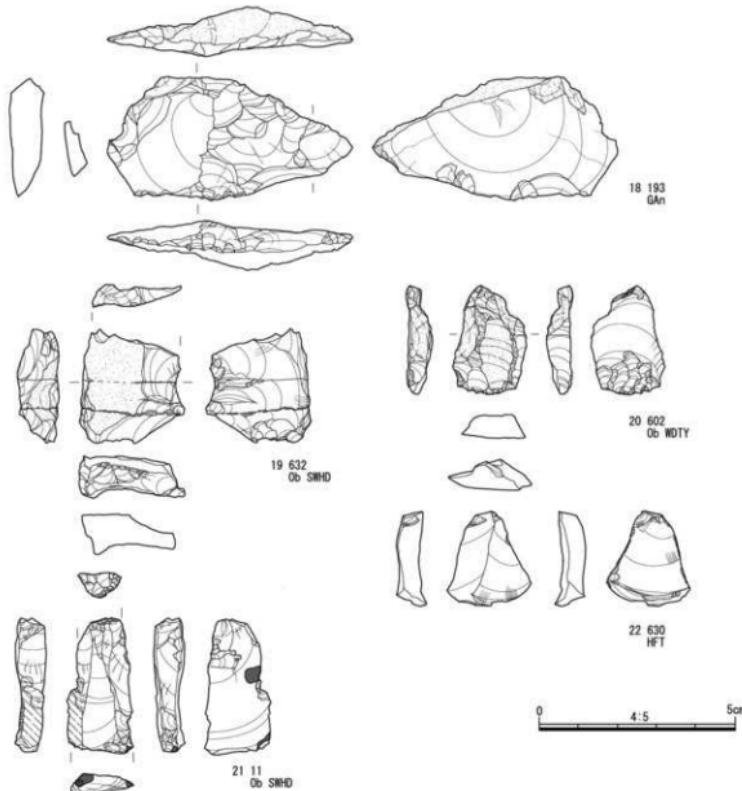
どちらも脚部以外は欠損している。6は脚部の先端が尖っており、その形状から推測すると抉りは深い。7は脚部の先端が丸くなっている、抉りは深いと考えられる。それぞれ黒曜石(天城柏原群、神津島恩馳島群)を用いている。



第21図 細沢遺跡 純文 石器2

## B類：基部の抉りが浅いもの（第20図8・9・10）

8は右の脚部が折損している。平面形状は二等辺三角形を呈する。抉りは他の2点と比較するとやや深い。両面ともに精緻な加工がなされている。石材は黒曜石（天城柏峰群）を使用している。9は平面形状が二等辺三角形を呈し完形である。全体的に扁平な形状をなしている。脚部の先端は尖っており、抉



第22図 細沢遺跡 案文 石器3

りは浅い。器体中央は大きな加工を施し、側縁部には微細な加工が施され調整がなされている。石材はガラス質黒色安山岩を使用している。10は先端部が折損している。脚部の抉りは浅く、平坦に近い。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を用いている。

#### C類：その他(第20図11)

五角形に近似した形状を持つ。左の脚部が折損している。側縁部の先端部から脚部にいたる間に段差が生じている。表裏両面ともに精緻な調整がなされている。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を用いている。

#### 削器(第21図12～17、第22図18)

7点出土した。12は剥片素材を使用し、下部から右側縁部にかけて連続した剥離を施し刃部としている。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を使用している。13は剥片素材を使用し、表面下部から左側縁部にかけて剥離を施し調整している。表裏両面の下部はやや幅広の剥離を施し、細かな調整はほとんど行われず刃部としている。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を使用している。14は縦長の剥片素材を縦位に用い、

打点部を右下側縁部に置く。上部に原礫面が残る。剥片素材の形状をほぼそのまま使用しており、上部と左右側縁部にわずかな加工を施し刃部としている。下部は連続した打撃痕があり、剥離面が残る。石材はガラス質黒色安山岩を用いている。15はSF04から出土した。やや縦長の剥片を縦位に用い、打点部を右下側縁部に置く。下部にやや大きめの剥離を施したのち、連続した微細な剥離を施して刃部を調整している。石材は黒チャートを使用している。16は貝殻状の剥片を素材とし、表裏両面の下部に細かい調整を施して刃部としている。石材はガラス質黒色安山岩を用いている。17は縦長の剥片素材で、打点を右側縁部に置く。下部に細かな押圧剥離を施し刃部としている。石材はホルンフェルスを用いている。18は上部に自然面を残す横長の素材剥片を用い、表面下部の左半部に細かな加工を施し刃部としている。石材はガラス質黒色安山岩を使用している。

#### 搔器(第22図19・20)

2点出土した。19は表面の左半部に自然面が残る。剥離によって不定形な形状をなす。裏面下端部に小さな剥離を施し刃部としている。20は縦長の剥片素材を縦位に用い、打点を下部に置く。左右側縁部と上部に細かな加工はほとんど確認できず、裏面下部に、打面除去と刃部を作出するための複数回の打撃痕が確認できる。断面は台形状をなす。2点とも石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群、和田鷹山群)を用いている。

#### 使用痕のある剥片(第22図21・22)

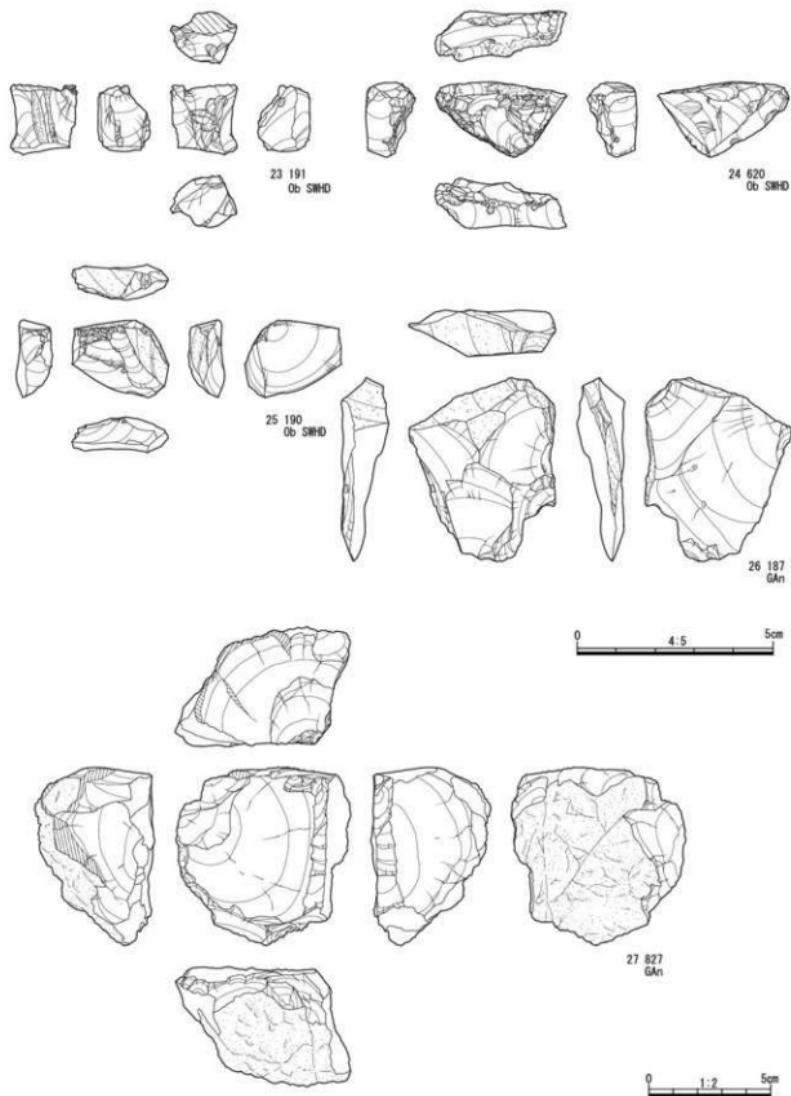
4点出土し、そのうちの2点を図示した。21は縦長の剥片素材を縦位に用い、打点を素材上部に置く。左側縁下端部に微細な剥離が見られ、使用痕と推定される。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)である。22はやや縦長の貝殻状剥片を素材とし、打点を上部に置く。裏面左側縁部に微細な剥離が見られ、使用痕と考えられる。石材は硬質細粒凝灰岩である。

#### 石核(第23図23～27)

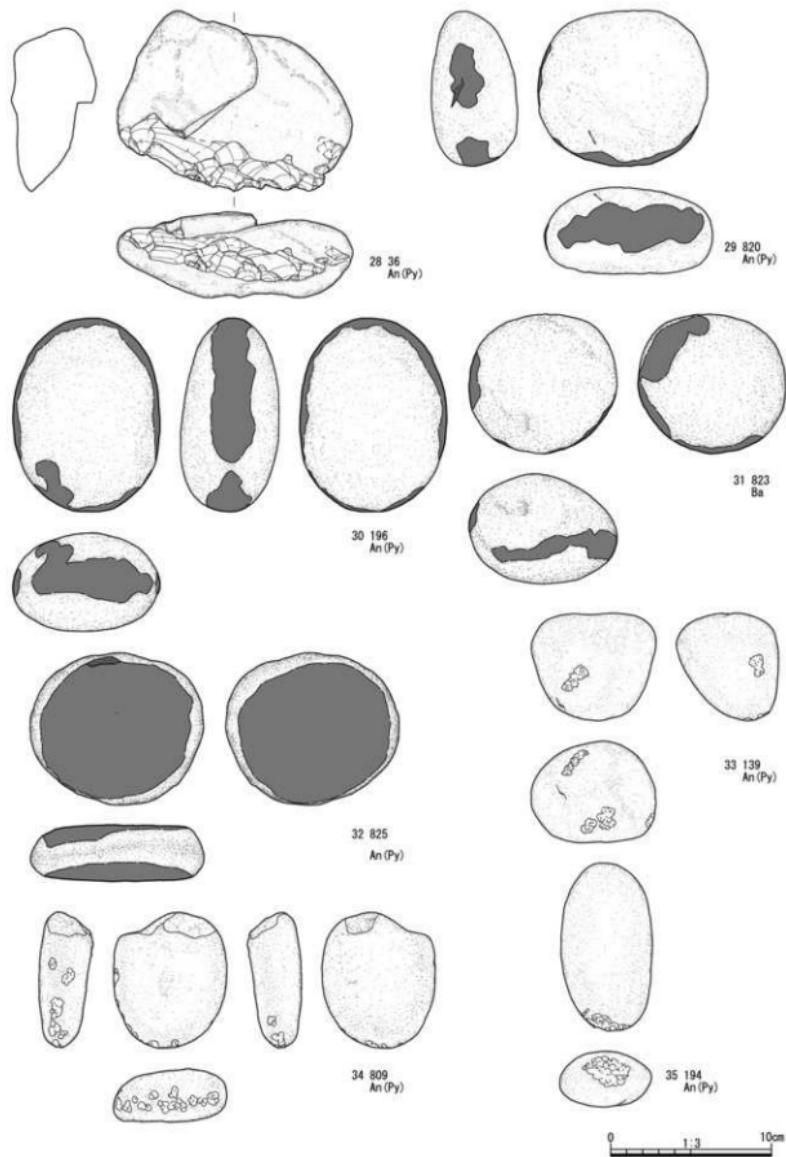
5点出土した。23は打面転移を繰り返しサイコロ状となった石核である。左右両面を主な作業面としている。左面は上部から、右面は下部から打撃を加えて剥片を得ている。180°打面転移によって剥片剥離を行っていることがわかる。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を用いている。24は剥片剥離によって直角三角形に似た形状となった石核である。上面を打面とし、対向する両面の上端部を打点として、同一方向からの剥片剥離を施している。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を用いている。25は貝殻状を呈し、自然面の残る平坦な上面に調整を加えて打面としている。上部からの打撃によって、表面を作業面としていることが確認できる。石材は黒曜石(諏訪星ヶ台群)を用いている。26は石核の周縁部から求心的に打撃し、貝殻状剥片を剥離している。石材はガラス質黒色安山岩である。27は打面転移を頻繁に繰り返した拳大の石核である。裏面と下部の形状から原岩は円礫と考えられ、左側面を打点として石核の打面を作出している。表面を打面とし、左右両面と上面を作業面として、幅広で横長の素材剥片を剥離させている。石材はガラス質黒色安山岩を用いている。

#### 礫器(第24図28)

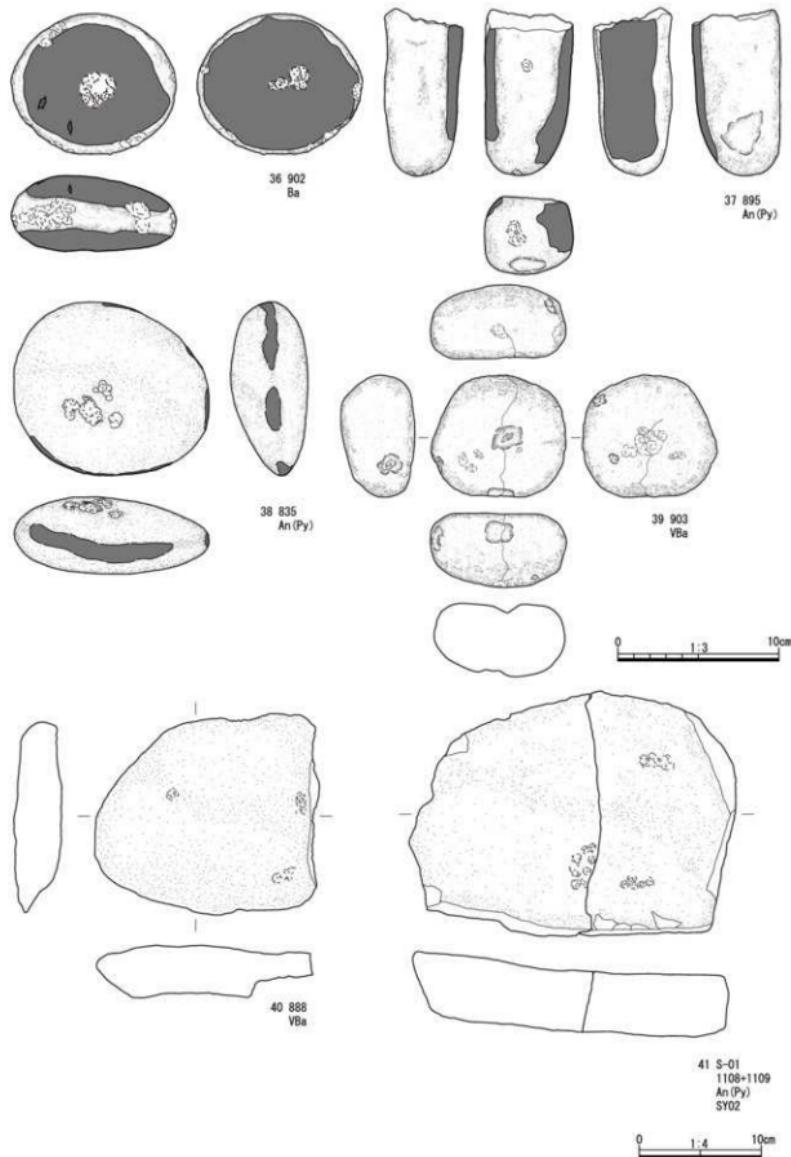
1点出土した。扁平で横長の礫を素材とし、原礫の形状を多く残す。表面下部に数回の剥離を行って刃部を作出している。石材は輝石安山岩を使用している。



第23図 細沢遺跡 繩文 石器4



第24図 細沢遺跡 繩文 石器5



第25図 細沢遺跡 繩文 石器6

**磨石(第24図29～32)**

6点出土し、そのうちの4点を図示した。29はやや肉厚で扁平な円礫を素材として、下部と左側縁部の一部に磨り痕が確認できる。石材は輝石安山岩である。30は楕円形で丸みを帯びた礫を素材とし、縁辺部に磨りの痕跡が確認できる。石材は輝石安山岩を使用している。31は拳大の円礫を素材とし、縁辺部の大部分に磨り痕が確認できる。石材は玄武岩を用いている。32は扁平な円礫を素材とし、表裏両面全体を磨りに使用した痕が確認できる。石材は輝石安山岩を用いている。

**敲石(第24図33～35)**

3点出土した。33は隅丸三角形に近い形状をした礫に、敲打痕が3ヶ所ほど点在している。34は一部が欠損した平坦な礫を素材とし、敲打痕が下側縁部を中心に左側縁部まで確認できる。35は継長の礫を素材とし、敲打痕は下先端部にのみ集中する。3点とも輝石安山岩を用いている。

**磨敲石(第25図36～38)**

3点出土した。36は平坦な楕円形の礫を素材とし、表裏両面全体に磨り痕が確認できる。磨り痕の上から敲打痕が表裏両面の中心部と下側縁部に確認できる。石材は玄武岩を用いている。37は継長の礫を素材とし、右面と左側縁部に磨り痕、下先端部に敲打痕が確認できる。磨り痕が欠損部との境目までであることから、本来はもう少し継長の素材であったことが推測できる。石材は輝石安山岩を用いている。38は楕円形の礫を素材とし、左側縁部以外の大部分に磨り痕が認められ、表面中央部付近に敲打痕が確認できる。石材は輝石安山岩を用いている。

**凹石(第25図39)**

平坦な円形の礫を素材としている。表面中央部、左側縁部下端、下側縁部中央に凹みがある。また、表面左下、裏面中央、左側縁部下端の凹みに敲打痕が認められる。石材は多孔質玄武岩を使用している。

**台石(第25図40・41)**

3点出土し、平坦面に敲打痕があるものを台石とした。40は表面の3ヶ所にわずかな敲打痕が確認できる。41はSY02から出土した。表面の3ヶ所に敲打痕が確認できる。出土時は折損していたが、隣り合う状態で出土したため接合した。それぞれ多孔質玄武岩、輝石安山岩を用いている。

第8表 細沢跡 石器観察表

[旧石器時代]

因縫番号	遺物番号	遺構名	器種	層位	石材	Ob 産地	重量 (g)	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	グリッド	総合 評化
第7回 1	1057	RG02	剥片	YLM	Hor		4.64	1.77	0.51	3.25	-89.312.42	35.717.91	265.185	F-014	
(縄文時代)															
因縫番号	遺物番号	遺構名	器種	層位	石材	Ob 産地	重量 (g)	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	グリッド	総合 評化
第20回 2	970	尖頭器	JO	Ob	WDKB	6.18	2.90	1.14	17.99	-89.247.96	35.604.63	283.919	M-003		
第20回 3	1085	尖頭器	JO	GAn		6.54	2.21	11.20	14.05	-89.303.37	35.711.53	267.325	G-014		
第20回 4	1075	有呂尖頭器	JO	GAn		(5.24)	1.49	0.52	3.71	-89.304.32	35.720.09	264.812	G-015		
第20回 5	1067	有呂尖頭器	JO	Rhy		(3.03)	1.24	0.54	1.65	-89.317.69	35.716.26	265.974	F-014		
第20回 6	613	石核	JO	Ob	AGKT	(1.48)	0.94	0.42	0.43	-89.311.02	35.718.61	266.782	F-014		
第20回 7	1066	石核	JO	Ob	KZOB	(1.73)	(1.34)	0.29	0.39	-89.303.28	35.721.43	265.414	G-015		
第20回 8	616	石核	JO	Ob	AGKT	2.16	(1.38)	0.48	0.72	-89.312.40	35.717.29	266.898	F-014		
第20回 9	839	石核	JO	GAn		3.31	2.93	0.39	3.28	-89.312.75	35.715.74	266.913	F-014		
第20回 10	894	石核	JO	Ob	SWHD	(0.99)	1.67	0.31	0.43	-89.310.72	35.717.19	266.519	F-014		
第20回 11	828	石核	JO	Ob	SWHD	2.02	(1.48)	0.36	0.68	-89.305.15	35.721.49	265.607	G-015		
第21回 12	603	刮器	JO	Ob	SWHD	(1.75)	2.63	0.71	2.49	-89.307.76	35.719.29	266.312	G-014		
第21回 13	893	刮器	JO	Ob	SWHD	2.60	1.80	0.79	2.95	-89.316.48	35.713.54	266.744	F-014		
第21回 14	1095	刮器	JO	GAn		4.97	3.06	1.23	14.09	-89.311.78	35.713.23	266.085	F-014		
第21回 15	980	SF04	JO	Ch(Bi)		3.64	2.48	0.95	7.62	-89.320.09	35.711.54	265.559	E-014		
第21回 16	633	刮器	JO	GAn		5.65	3.70	1.00	19.22	-89.312.99	35.717.93	266.619	F-014		
第21回 17	814	刮器	JO	Hor(Ci)		4.76	7.66	1.73	40.94	-89.315.19	35.716.40	266.74	F-014		
第22回 18	193	刮器	JO	GAn		3.11	6.28	1.29	18.43	-89.320.16	35.715.40	266.787	E-014		
第22回 19	632	挫器	JO	Ob	SWHD	2.92	2.68	1.09	7.84	-89.315.25	35.716.48	266.804	F-014		
第22回 20	602	挫器	JO	Ob	WDTY	2.77	1.87	0.71	3.03	-89.307.29	35.719.07	266.282	G-014		
第22回 21	11	UF	JO	Ob	SWHD	3.47	1.71	0.79	4.60	-89.380.87	35.650.18	274.192	I-008		
第22回 22	630	UF	JO	HFT		2.42	2.12	0.75	2.70	-89.312.48	35.716.30	266.959	F-014		
第23回 23	191	石核	JO	Ob	SWHD	1.82	1.71	1.34	3.77	-89.317.49	35.716.09	266.828	F-014		
第23回 24	620	石核	JO	Ob	SWHD	3.42	1.94	1.22	7.00	-89.316.38	35.715.53	267.13	F-014		
第23回 25	190	石核	JO	Ob	SWHD	1.98	2.46	0.84	4.24	-89.314.81	35.718.45	266.861	F-014		
第23回 26	187	石核	JO	GAn		4.70	3.74	1.23	15.84	-89.305.68	35.721.29	265.657	G-015		
第23回 27	827	石核	JO	GAn		7.28	7.14	4.78	296.32	-89.312.31	35.718.53	266.653	F-014		
第24回 28	36	擦器	JO	An(Py)		14.58	11.21	5.30	96.00	-89.253.69	35.611.17	265.372	L-004		
第24回 29	820	磨石	JO	An(Py)		9.65	10.49	3.36	77.00	-89.308.53	35.714.58	266.696	G-014		
第24回 30	196	磨石	JO	An(Py)		12.03	9.22	6.11	99.00	-89.307.30	35.728.34	266.974	G-015		
第24回 31	823	磨石	JO	Ba		8.68	9.21	6.87	73.00	-89.311.97	35.718.32	266.595	F-014		
第24回 32	825	磨石	JO	An(Py)		9.47	10.76	3.49	54.00	-89.313.22	35.717.92	266.655	F-014		
第24回 33	139	敲石	JO	An(Py)		6.72	7.76	6.31	42.00	-89.315.64	35.717.46	267.043	F-014		
第24回 34	809	敲石	JO	An(Py)		(8.45)	(7.02)	(3.38)	240.00	-89.319.27	35.714.15	266.576	F-014		
第24回 35	194	敲石	JO	An(Py)		10.38	5.70	3.49	330.00	-89.317.42	35.718.21	267.05	F-014		
第25回 36	902	磨石	JO	Ba		10.23	8.72	4.70	57.00	-89.312.09	35.716.75	266.551	F-014	○	
第25回 37	895	磨石	JO	An(Py)		10.39	5.56	4.93	46.00	-89.309.06	35.718.79	266.22	G-014	○	
第25回 38	835	磨石	JO	An(Py)		10.76	12.11	48.20	72.00	-89.314.25	35.715.72	266.873	F-014		
第25回 39	903	凹石	JO	VBa		8.29	7.54	4.48	37.00	-89.318.86	35.716.43	266.773	F-014	○	
第25回 40	888	台石	JO	VBa						-89.312.54	35.716.87	266.664	F-014	○	
第25回 41	1108	SY02	台石	JO	An(Py)					-89.299.98	35.719.91	264.937	H-014	S-1	
第25回 41	1109	SY02	台石	JO	An(Py)					-89.299.83	35.719.98	264.908	H-014	S-1	
	907	楔形石器	JO	Ob	SWHD	2.57	1.58	1.04	4.06	-89.317.70	35.716.08	266.776	F-014		
	621	RF	JO	Ob	WDTY	1.53	0.36	0.30	0.14	-89.317.05	35.713.14	266.933	F-014		
	631	UF	JO	Ob	SWHD	1.53	1.08	0.33	0.68	-89.314.82	35.715.08	266.814	F-014		
	911	UF	JO	Ob	SWHD	1.16	2.26	0.41	0.82	-89.319.43	35.715.84	266.763	F-014		
	922	打製石斧	JO	An(Py)		(6.40)	4.67	(47.98)	-89.319.79	35.714.75	266.552	F-014	○		
	195	磨石	JO	An(Py)		(93.00)	(53.00)	(38.00)	(180.00)	-89.316.77	35.718.38	267.023	F-014		
	979	磨石	JO	An(Py)		(52.00)	55.00	28.00	(100.00)	-89.322.24	35.712.53	265.835	E-014		
	608	剥片	JO	GAn		3.10	2.18	0.81	6.15	-89.309.72	35.717.60	266.771	G-014		
	840	剥片	JO	GAn		6.63	4.36	1.25	49.81	-89.315.26	35.714.34	266.748	F-014		
	188	剥片	JO	Ob		0.73	1.56	0.18	0.17	-89.304.68	35.722.32	265.442	G-015		
	189	剥片	JO	Ob		1.51	2.93	0.62	2.64	-89.310.42	35.719.38	266.678	F-014		
	601	剥片	JO	Ob		1.17	1.58	0.58	1.08	-89.306.97	35.719.98	265.945	G-014		
	604	剥片	JO	Ob		0.95	0.84	0.28	0.21	-89.308.39	35.719.12	266.272	G-014		

回収番号	遺物番号	遺構名	器種	層位	石材	Ob 産地	重量 (g)	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	グリッド接合番号
605		剥片	JO	Ob			1.68	1.10	0.28	0.31	-89.308.27	35.718.09	266.324	G-014
606		剥片	JO	Ob			0.78	1.24	0.26	0.20	-89.309.25	35.718.42	266.531	G-014
609		剥片	JO	Ob			1.71	1.27	0.19	0.34	-89.309.66	35.717.27	266.726	G-014
611		剥片	JO	Ob			1.21	0.90	0.20	0.18	-89.310.43	35.718.00	266.777	F-014
612		剥片	JO	Ob			1.48	2.13	0.62	1.41	-89.310.53	35.719.29	266.696	F-014
614		剥片	JO	Ob			1.96	1.83	0.44	1.48	-89.311.47	35.718.80	266.63	F-014
615		剥片	JO	Ob			2.02	1.50	0.42	1.29	-89.312.48	35.717.98	266.805	F-014
617		剥片	JO	Ob			1.24	1.10	0.14	0.14	-89.313.00	35.716.95	267.013	F-014
618		剥片	JO	Ob			0.98	0.94	0.28	0.20	-89.313.91	35.716.51	266.999	F-014
619		剥片	JO	Ob			1.19	1.11	0.24	0.32	-89.314.41	35.715.44	266.795	F-014
622		剥片	JO	Ob			0.66	1.13	0.65	0.53	-89.317.63	35.713.80	266.926	F-014
623		剥片	JO	Ob			0.67	0.78	0.86	0.38	-89.317.91	35.714.05	266.839	F-014
624		剥片	JO	Ob			1.10	0.76	0.20	0.17	-89.319.12	35.713.92	266.641	F-014
626		剥片	JO	Ob			2.31	2.03	0.51	2.55	-89.319.88	35.713.12	266.497	F-014
627		剥片	JO	Ob			2.15	1.31	0.47	1.31	-89.317.99	35.717.68	267.025	F-014
628		剥片	JO	Ob			1.56	1.75	0.24	0.74	-89.310.82	35.716.89	266.725	F-014
629		剥片	JO	Ob			1.06	0.76	0.23	0.21	-89.312.36	35.717.06	266.789	F-014
634		剥片	JO	Ob			1.45	1.49	0.27	0.45	-89.318.14	35.715.91	266.967	F-014
807		剥片	JO	Ob			1.37	1.18	0.34	0.42	-89.318.63	35.717.33	266.951	F-014
829		剥片	JO	Ob			3.06	1.44	1.17	4.10	-89.307.54	35.718.06	266.086	G-014
830		剥片	JO	Ob			2.20	0.77	0.26	0.38	-89.309.72	35.718.96	266.368	G-014
831		剥片	JO	Ob			2.21	1.85	0.88	2.29	-89.309.61	35.718.10	266.339	G-014
832		剥片	JO	Ob			1.83	1.73	0.33	0.91	-89.310.23	35.718.35	266.465	F-014
833		剥片	JO	Ob			1.74	2.55	0.61	2.44	-89.311.18	35.718.07	266.538	F-014
834		剥片	JO	Ob			1.64	1.24	0.33	0.48	-89.312.58	35.716.27	266.91	F-014
898		剥片	JO	Ob			1.10	2.57	0.64	1.33	-89.307.18	35.721.10	265.816	G-015
899		剥片	JO	Ob			1.84	1.31	0.28	0.65	-89.307.26	35.719.03	265.953	G-014
900		剥片	JO	Ob			3.36	0.97	0.51	1.64	-89.309.11	35.719.24	266.149	G-014
901		剥片	JO	Ob			1.80	3.16	1.02	4.11	-89.309.08	35.717.26	266.227	G-014
905		剥片	JO	Ob			1.23	1.40	0.27	0.40	-89.315.98	35.717.10	266.721	F-014
906		剥片	JO	Ob			1.70	1.23	0.32	0.66	-89.317.36	35.716.07	266.745	F-014
908		剥片	JO	Ob			1.54	0.97	0.45	0.64	-89.317.76	35.715.84	266.747	F-014
909		剥片	JO	Ob			0.89	1.19	0.28	0.25	-89.317.89	35.716.22	266.638	F-014
912		剥片	JO	Ob			1.25	0.71	0.11	0.14	-89.319.34	35.715.54	266.636	F-014
913		剥片	JO	Ob			1.38	1.15	0.49	0.45	-89.317.08	35.715.29	266.751	F-014
915		剥片	JO	Ob			1.70	2.44	1.01	3.31	-89.317.83	35.714.44	266.726	F-014
916		剥片	JO	Ob			0.85	1.39	0.25	0.23	-89.307.33	35.719.19	265.931	G-014
967		剥片	JO	Ob			2.61	2.47	0.64	3.56	-89.312.15	35.719.65	266.633	F-014
1068		剥片	JO	Ob			0.67	0.86	0.77	0.38	-89.303.51	35.720.85	265.399	G-015
1156		剥片	JO	Ob			0.68	1.10	0.16	0.11				
969		剥片	JO	Sh			2.97	2.74	0.53	4.28	-89.248.98	35.604.88	284.021	M-003
610		砂片	JO	Ob			0.58	0.65	0.16	0.04	-89.310.15	35.718.12	266.619	F-014
625		砂片	JO	Ob			0.85	0.76	0.28	0.06	-89.319.25	35.713.71	266.558	F-014
892		砂片	JO	Ob			0.57	0.84	0.15	0.06	-89.319.14	35.714.22	266.611	F-014
910		砂片	JO	Ob			0.77	0.41	0.12	0.03	-89.318.87	35.715.76	266.589	F-014
917		砂片	JO	Ob			-	-	-	>0.01	-89.309.52	35.718.54	266.342	G-014
918		砂片	JO	Ob			0.51	0.50	0.11	0.02	-89.309.58	35.718.46	266.256	G-014
919		砂片	JO	Ob			0.57	0.29	0.07	0.01	-89.309.57	35.718.32	266.258	G-014
920		砂片	JO	Ob			0.53	0.59	0.10	>0.01	-89.308.76	35.718.83	266.143	G-014
921		砂片	JO	Ob			0.47	0.42	0.06	>0.01	-89.308.78	35.718.88	266.144	G-014

## 第3章 南山Ⅲ東遺跡

### 第1節 調査の概要

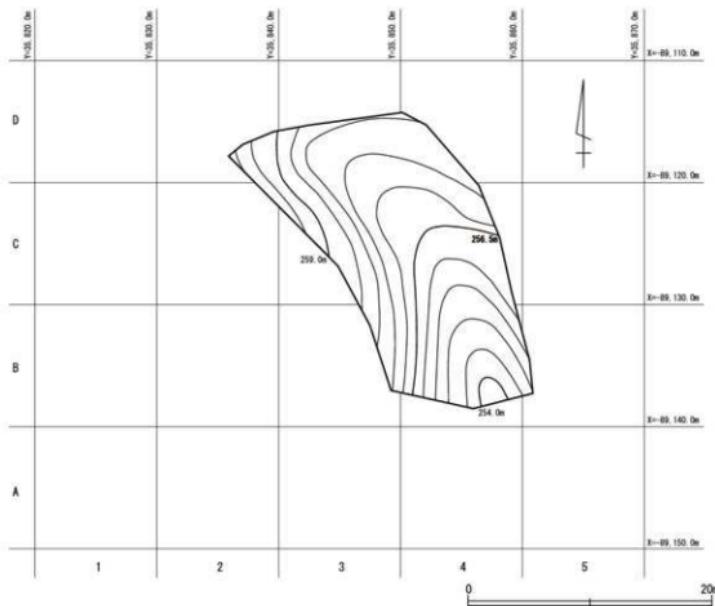
#### 1 遺跡の概要

愛鷹山から東方向に向かって延びる比較的幅の広い尾根上に立地し、その中でも枝尾根に開まれた小規模な谷の頂部付近に位置する。調査区は小規模といえども谷に挟まれた狭隘な地形で、西は頂部から段丘上に落ち込み、東は谷底まで急斜面となっている。谷を開折した水の流れは埋没したと考えられ、現在、谷に自然流水を確認することはできない。ただし、降雨時に谷部へと水が川のように流れることも容易に想像でき、年月をかけて徐々に開折していくと推定される。

#### 2 調査に至る経過

南山Ⅲ東遺跡の発掘調査は平成17年4月から同年7月までの3ヶ月余の期間で実施した。対象面積280m<sup>2</sup>を調査範囲として、表土掘削はか重機を用いる必要がある箇所には三星建設工業株式会社に委託して実施した。その後テストピットを3ヶ所設定し、人力にて掘削を行った。

本調査に先立ち、裾野市道2220号線は道幅が狭く公用車等のすれ違いも困難なため、一部の側溝にふたをかぶせ、対向車が来た場合の退避場を設けた。調査区は谷の頂部付近に位置していたため、日本道路公団の指示により、裾野市道2220号線から掘削調査地点までの進入路として利用する公衆用道路の整



第26図 南山Ⅲ東遺跡 グリッド配置図

備を行った。平成17年4月18日より現地設営及び安全管理に対する諸作業を開始した。表土掘削の前段階として、バックホウによる伐採木の撤去と抜根を行った。それらと並行する形で土止め設置を行い、安全確保につとめた。表土掘削後、新規スコリア層までを完全に除去したのは人力掘削を行った。テストピットを谷の頂部付近に1ヶ所(TP 1)、谷部に2ヶ所(TP 2・3)設定し、包含層の状態確認を行った。TP 2・3から礫2点が出土したため、北東側を拡張し掘削した。TP 2より礫が4点出土し、TP 2と3の間に幅40cmの土層帯を残してつなげた。谷の頂部に設置したTP 1は中部ローム層を検出するレベルまで掘り下げたが、調査対象外となった。そこで調査対象区域を谷部の280mに設定しなおした。重機に関する業務は、三星建設工業株式会社に委託した。

谷部には礫が散在しているが、その地形から堆積が不安定で層位が不明なため、帰属時期までは判明できなかった。また、出土した礫に混じり、黒曜石の剥片1片が出土した。黒曜石はその後も調査区東側から数点出土したもの、造構は検出されなかった。これまで出土した黒曜石、礫はカワゴ平バミスを多量に含む2層と、それらを微量に含む3層との間において出土した。またこれらの層位から土坑が3基検出された。その後、新たにテストピットを3ヶ所設定し、人力による中部ローム層までの掘削作業に入った。その過程で土坑が1基検出され、テストピット掘削を中止し全面掘削に切り替えた。

しかし、これ以降黒曜石片の出土もなく、土坑の検出もされなかつたため、平成17年7月19日に現場作業は全て終了した。

### 3 調査の方法

遺跡全体を把握するため改正前の日本測地系を用い、國土平面直角座標系標系のX = -89150.0、Y = 35820.0上を(A、1)として、X軸方向(南から北)にA、B、Cの順にアルファベット、Y軸方向(西から東)に1、2、3と数字を付し遺跡全体に10m方眼を設定、グリッドとした。

抜根や表土除去、排土処理にはバックホウとクローラーダンプを使用した。掘削は手掘りを原則としつつも、遺物の分布が希薄な部分や旧石器時代の無遺物層の除去の際には、適宜重機を用いて作業の迅速化を図った。

遺物は、トータルステーションによってX・Y座標値と標高値(Z)を記録し取り上げた。遺物には層位別に土器=P、石器=S、礫=R等の略号と3桁の通し番号をつけた。地形測量は造構検出面での測量を基本とし、1mメッシュで測量した。個別造構図は平面図・立面図等を縮尺1/20を基本として手実測により図化した。写真記録撮影は6×7判(モノクロ)と35mm(カラー、モノクロ、リバーサル)を組み合わせて行った。なお、測量に関する業務委託は、大成エンジニアリング株式会社に委託した。

### 4 資料整理と報告書作成

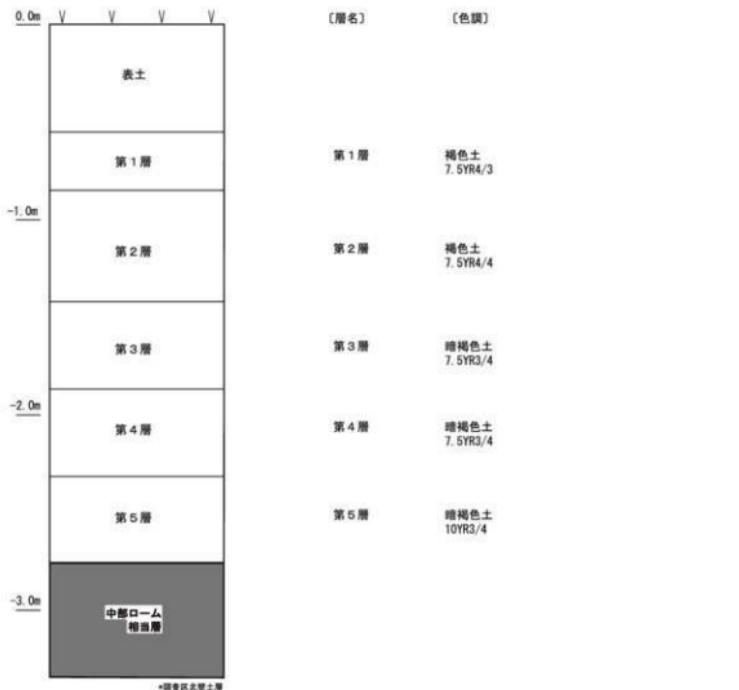
**基礎整理作業** 平成17年度中から、基礎整理作業を開始した。調査が終了した直後より、土器・石器・礫は洗浄後に遺物番号の注記作業を行った。

**本整理作業** 平成24年5月、本格的な整理作業開始に伴い、石器は調整・加工されているものを中心にして実測図を作成した。黒曜石については縄文時代の石器は調整・加工が認められるものを選別、旧石器時代に関しては全ての遺物を分析の対象とし、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏に依頼して、産地推定分析を行った。報告書の作成に伴い、全体図や造構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。造構図面に関しては、手実測図とシステムデータを統合して作業を行った。また、調査現場で用いたトータルステーションの記録データはCADで図化されるが、図化

されたデータをAdobe Illustrator CS3に取り込み、図版の編集を行った。なお、資料整理作業については株式会社パソナに業務委託した。

## 第2節 基本層序

愛鷹山麓(おもに東南麓)には愛鷹ロームが堆積しており、愛鷹ローム団体研究グループによる火山灰層序学的区分に準拠して考古学的基本層序が定義されている。その層序には対応しにくい土層ではあったが、古期富士火山から噴出されたスコリアや火山灰を中心に構成されており、愛鷹山が火山活動を終息させた約10万年前より後に堆積した地形と考えられている。愛鷹ローム団体研究グループによる調査で、上部ローム・中部ローム・下部ロームと大別されており、上部ローム層の下限は約3万年前で、黒色帶とスコリア層が互層になっており、それぞれ順に番号が付されている。若干の搅乱部分も確認されたが、それ以外は全体的に本来の地形を検出することができた。基本層序は、表土を含めると第7層に分層が可能であった。縄文時代の遺物包含層は第2層～第5層である。



第27図 南山東遺跡 基本土層図

表土 黒色有機質土からなる。

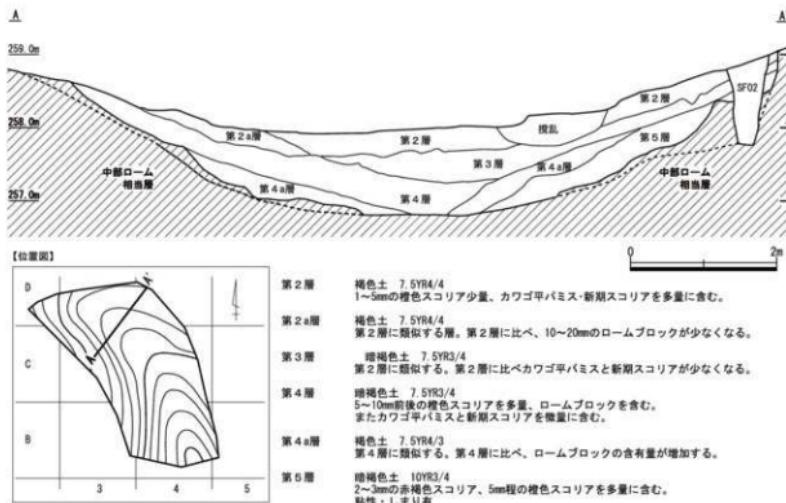
第1層 褐色土層 径2~3mm前後の橙色スコリアを少量、新期スコリアと砂沢スコリアを部分的に含む。

第2層 褐色土層 径1~5mm前後の橙色スコリアを少量、カワゴ平バミスと新期スコリアを多量に含む。

第3層 暗褐色土層 第2層に比べカワゴ平バミスと新期スコリアが少なくなる。

第4層 暗褐色土層 径5~10mm前後の橙色スコリアを多量、ロームブロックを含む。また、カワゴ平バミスと新期スコリアを微量に含む。

第5層 暗褐色土層 径2~3mmの赤褐色スコリア、径5mm前後の橙色スコリアを多量に含む。

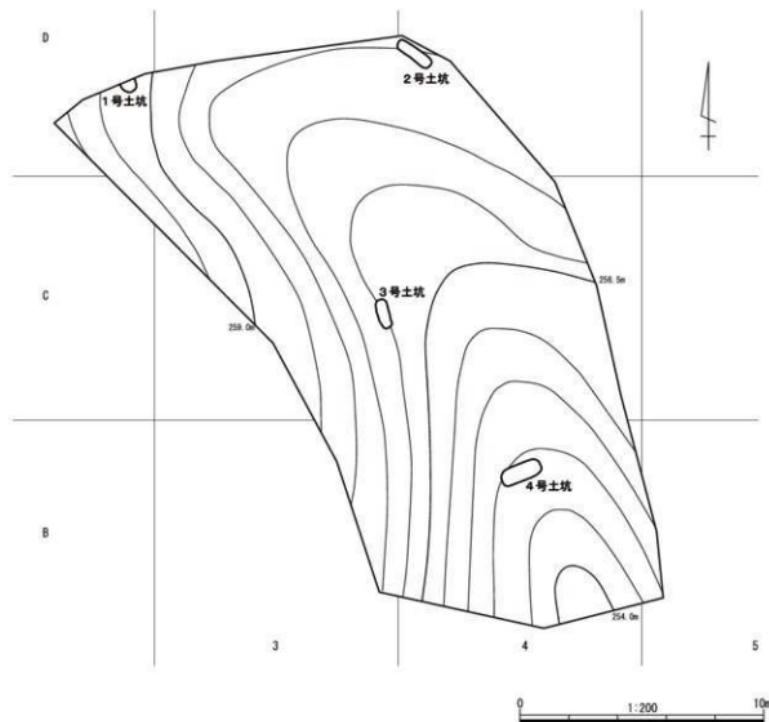


第28図 南山Ⅲ東遺跡 土層堆積状況

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 遺構

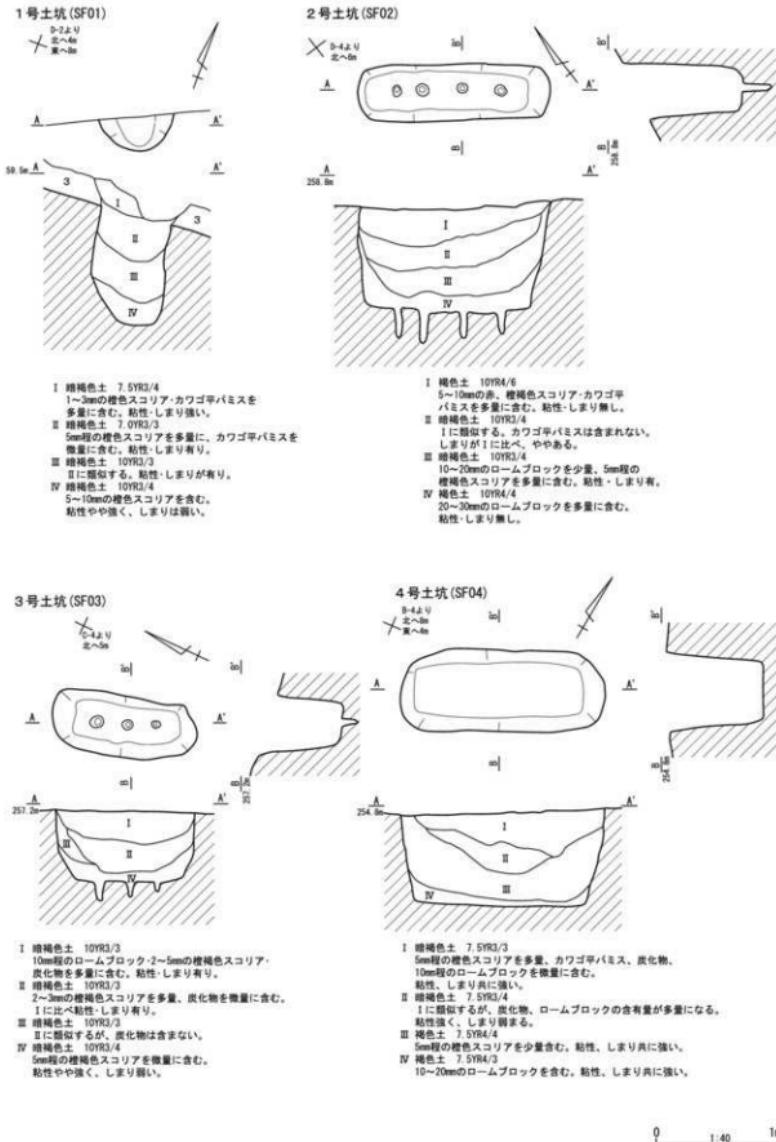
縄文時代の遺構として、土坑が4基確認された。検出面は縄文時代の層位と想定される第3層である。斜面に位置しているため、開口部が斜面と同角度の傾きを呈するものが多く、また逆茂木痕と思われる小穴を持つものと持たないもののが存在する。



第29図 南山Ⅲ東遺跡 遺構全体図

#### 1号土坑(SF01・第30図)

D - 2 グリッドに位置し、遺構の北半は調査区外にのびる。周辺の土坑との比較検討から、開口部および平面形は梢円形であったと想定した。開口部長径が0.57mで、深さは確認面より89.9cmであった。土坑の断面は山側にいびつなU字形である。土坑断面の北西側は山頂方向へと傾き、南東側が谷底方向に傾く。土層堆積状況は、頂部方向から谷部方向への堆積が確認でき、自然堆積による埋没と想定される。覆土は褐色系の土壤である。



第30図 南山Ⅲ東遺跡 土坑

**2号土坑(SF02・第30図)**

D-4グリッドに位置し、開口部および平面形は、他の土坑に比べると細長い楕円形をしている。開口部長径が1.58m、短径が0.46m、深さは確認面より88.1cmであった。土坑断面は箱形であり、壁はほぼ垂直に立ちあがっている。山頂部である北西方向から谷底の南東方向にかけて、斜面に直交して掘削される。土坑底部には、逆茂木痕と思われる小穴が4ヶ所確認できた。各小穴の深さは25cm前後である。土層堆積状況は自然堆積していると考えられる。1号土坑(SF01)と同様、覆土は褐色系の土壤である。

**3号土坑(SF03・第30図)**

C-3グリッドに位置し、開口部および平面形は多少いびつな楕円形をしている。開口部長径1.52m、短径が0.50m、深さは確認面より59.8cmであった。土坑断面はU字形で、壁はほぼ垂直に立ちあがり、山頂部側の壁はゆるやかに立ち上がり、中ほどで垂直に立ち上がる。土坑底部には2号土坑(SF02)と同様に逆茂木痕と思われる小穴が3ヶ所確認できた。各小穴はおよそ20cm前後の深さである。また、山頂側から谷底側にかけて、徐々に小穴の深さが浅くなっている。土層堆積状況は、1号土坑(SF01)と同様、覆土は褐色系の土壤である。

**4号土坑(SF04・第30図)**

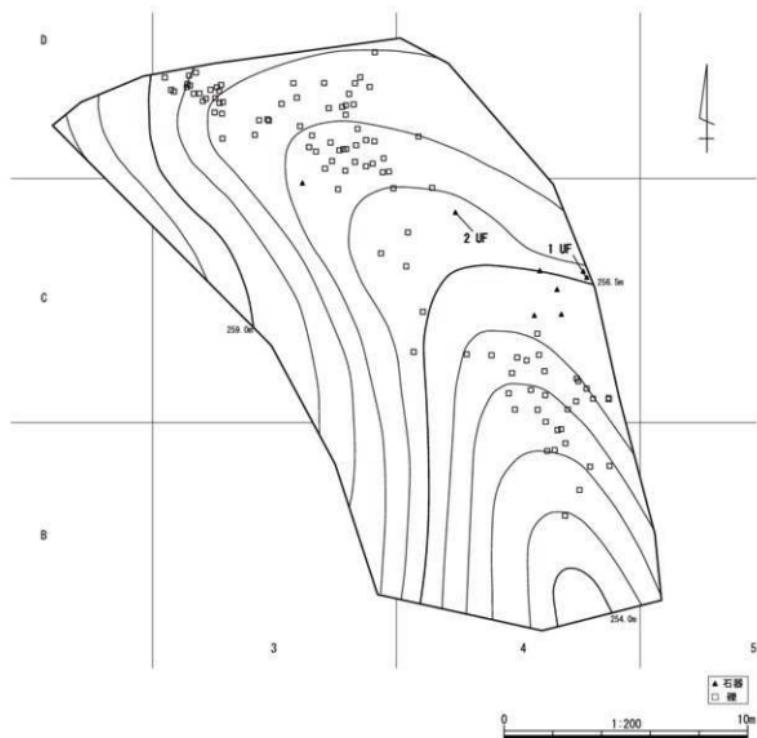
B-4グリッドに位置し、開口部および平面形は楕円形をしている。開口部長径1.68m、短径0.67m、深さは確認面より77.6cmであった。谷底に位置し、等高線とはほぼ並行する形で土坑が掘られている。土坑断面は箱形で、壁もほぼ垂直に立ちあがっている。1号土坑(SF01)と同様、覆土は褐色系の土壤である。

第9表 南山Ⅲ東遺跡 土坑一覧

遺構名	グリッド	検出層位	時期	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	備考
1号土坑	D-2	第3層	縄文	(楕円形)	0.57	—	89.9	
2号土坑	D-4	第3層	縄文	長楕円形	1.58	0.46	88.1	逆茂木4
3号土坑	C-3	第3層	縄文	長楕円形	1.15	0.50	59.8	逆茂木3
4号土坑	B-4	第3層	縄文	長楕円形	1.67	0.67	77.6	

## 2 遺物

出土遺物は黒曜石製の石器8点であった。そのうち、2点を図示した。いずれも調査区東側の斜面から出土している。



第31図 南山Ⅲ東遺跡 遺物出土状況

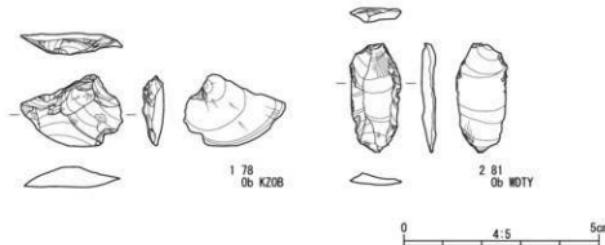
### 使用痕のある剥片 (第32図1・2)

1は貝殻状の剥片素材を使用している。黒曜石(神津島恩馳鳥群)。

2は縦長の剥片素材を縦位に用い、左右側縁部に微細な剥離が見られ、使用痕と推定される。黒曜石(和田鷹山群)。

第10表 南山Ⅲ東遺跡 石器組成表

石材	O	KZOB	UF			合計
			剥片	破片	合計	
	WDTY	1			1	
	不可等		5	1	6	
	合計	2	5	1	8	



第32回 南山Ⅲ東遺跡 出土遺物

第11表 南山Ⅲ東遺跡 石器観察表

図版番号	遺物 番号	遺構名	器種	層位	石材	Ob 度地	重量 (g)	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	グリッド
第32図 1	78	ITH	UF	第3層	Ob	KZOB	1.96	1.82	2.62	0.53	-89124.043	35857.811	256.940	C-004
第32図 2	81	ITH	UF	第4層	Ob	WDTY	1.18	2.77	1.32	0.35	-89121.383	35852.420	256.763	C-004
	1	ITH	剥片	第3層	Ob		0.05	0.74	0.56	0.13	-89125.606	35855.654	256.173	C-004
	2	ITH	剥片	第3層	Ob		0.64	0.58	1.65	0.62	-89125.562	35856.766	256.216	C-004
	3	ITH	剥片	第3層	Ob		0.23	0.94	1.10	0.27	-89124.541	35856.589	256.371	C-004
	4	ITH	剥片	第3層	Ob		1.14	1.51	1.45	0.51	-89120.180	35846.142	257.464	C-003
	79	ITH	剥片	第3層	Ob		0.99	1.23	1.55	0.80	-89123.794	35857.662	257.080	C-004
	80	ITH	剥片	第4層	Ob		0.93	2.18	1.37	0.26	-89123.772	35855.884	256.578	C-004

## 第4章 調査結果のまとめ

### 第1節 細沢遺跡

細沢遺跡では、旧石器時代に帰属すると考えられる遺構は礫群が3基検出され、遺物は石器1点、礫49点出土した。縄文時代に帰属すると考えられる遺構は集石2基、土坑5基が検出され、遺物は土器64点、石器104点、礫48点が出土した。

#### 1 旧石器時代

旧石器時代の遺物として、ホルンフェルス製の剥片(第7図1)が第6層(YLM)から検出された。同様に礫群も第6層から検出され、同時代の遺構と判断した。これらは調査区東拡張区の谷部から検出された。礫群のうち、2号礫群に属する一部の礫以外は全て赤化が認められた。特に2号礫群はおよそ1m四方に炭化物が分布していることから、調理などを行った残滓ではないかと想定した。遺構が谷部にしか存在しないが、尾根部の土層堆積が失われているため、全体的な遺構の姿は不明瞭である。

#### 2 縄文時代

土坑の用途は不明である。黒曜石は産地推定分析の結果、報告書未記載のものも含めた18点の黒曜石中、源訪星ヶ台群のものが12点と中心であった。和田鷹山群が2点、天城柏崎群も2点であった。他に和田小深沢群、神津島恩馳島群が各1点と、全体的にみても長野産の黒曜石群で占められている(附編出土黒曜石産地推定分析参照)。

1号・2号集石ともほとんどの礫に赤化が認められた。特に2号集石は炭化物・焼土粒が径1mの範囲に、堆積していることから、調理などに使用されたと判断した。

土器は早期末と思われるもの・前期・中期前半と推定されるものが出土したが、多くは土器片であった。前期の土器とされる第Ⅱ群土器は、諸磽式と判断される。また、遺物の分布は調査区東拡張区の谷部に集中していた。地形から土器片の分布状況をみると、尾根上から谷部へと流出したようにみることができる。そのため、先の旧石器時代でも触れたが、尾根部の土層堆積が失われており判然としない。調査区からは本報告において図示していない遺物も含めて、狩猟具(尖頭器・石鎌)10点、加工・生産具(削器、搔器、礫器、石核、磨石、敲石、台石類他)36点、土木具(打製石斧)1点が出土した(前掲第8表参照)。

互いに谷を隔てて隣接する佛ヶ尾遺跡と下ノ大窪遺跡では、立地条件がどちらも平坦な尾根上であるにも関わらず、佛ヶ尾遺跡では狩猟に重きを置き、下ノ大窪遺跡は採集活動が活発であったと出土遺物の比率から考えられている(野田ほか2007)。細沢遺跡の場合は、どちらに比重を置いたのかは、出土遺物の量から推測することは難しい。おそらくは、谷部も現在のような埋没谷ではなかったため風もある程度は防ぎやすく、火を用いるには適当な地形であったと思われる。明確な定住を示すデータはないため、細沢遺跡は狩猟と共に加工工具や土器を持参する、一時的な活動の場であったと推測した。

## 第2節 南山Ⅲ東遺跡

南山Ⅲ東遺跡では、縄文時代の層位である第3層・4層から土坑が4基検出されたほか、黒曜石の剥片が8点出土した。

これら4つの土坑のうち、2号土坑と3号土坑の底部に逆茂木痕と思われる小穴が確認された。第二東名建設に関わる周辺遺跡の発掘調査において、土坑の立地に共通していることは、尾根上の平坦部やなだらかな斜面に多くの土坑が掘られていることである。ここで焦点となるのは、土坑の検出された地形と形状である。土坑は、対象動物とその行動生態に応じて設置場所や組み合わせの方法が異なるとされているが、具体的な証拠は得られていない。しかし、円形の土坑は山地丘陵部の幅広い地形に対応して大規模に群集する傾向があるとされ、梢円形の土坑は谷底か尾根上で、高低差のある方向を長径として列をなす傾向が強いといわれている(薦科ほか2008)。

まず、土坑の立地について述べる。今村啓爾は「等高線との関係からみると、だいたいにおいて等高線と直交しているが、谷頭の近くではその谷の方向に引かれて方向が変わる。このような方向性は、けもの道が基本的に斜面を上下する方向で存在し、谷の近くに来るとその方向に向きを変えることである」と指摘している(今村1999)。さらに、「谷底の場合は谷の上下流方向を長軸とする」という(薦科ほか2008)。

本遺跡においては、いずれの土坑も谷底へ向かう比較的ゆるやかな斜面から発見された。長径が谷の上下流方向と等高線にはほぼ沿うかたちで立地しており、4号土坑以外は前述の土坑立地条件と重なる。おそらく、1号土坑もその形状から谷の上下流方向に長径と思われる(前掲第29図参照)。

次に形状の観点から述べる。裾野市内の第二東名建設に関わる発掘調査の嚆矢である佛ヶ尾遺跡では、長径が2m弱で長方形を呈するものを陥穴としており、長径70cm程度を超えるものを土坑、それ以外を小穴としている。

この例を用いて土坑の形状から判断すると、本遺跡の土坑は2号土坑(長径158m)、4号土坑(長径1.67m)が若干長径は短いものの陥穴に該当する。また、3号土坑は長径1.15mであるが逆茂木痕があり、長梢円形を呈していることから本遺跡では陥穴としたい。遺構が調査区外に至ると推測される1号土坑に関しては、深さが2号・3号土坑と近似しているため、断定はできないが陥穴とした。以上立地と形状双方の観点から土坑を観察した結果、本遺跡の土坑は陥穴であると判断した。

土坑底部にみられる小穴は、一般的に逆茂木痕と認識されている。逆茂木は、先端を銳利に尖らせた木槍等と認識しがちであるが、土坑底部の小穴は以下のようにも考えられている。

今村は横浜市霧ヶ丘遺跡において検出された陥穴底の小穴について、「衝撃が分散しないよう、致命傷を与えるには木槍の数は1～2本がよい」と唱えた。また、「動物を殺すことは、捕獲を確実にすることでも、肉が腐る前に取り出すためには頻繁な見回りを要することになり、人がいなくても作動する『人類最初の自動装置』である陥穴のメリットを大きく損なうことになる」とし、陥穴の底にある小穴の役割は「多数の棒によって動物の腹を支え、動物がピットの底に脚を付けて跳び出す体勢をとれなくしたものであろう」と定義づけた(今村1999)。また、旧石器時代の陥穴に関する論稿ではあるが、佐藤宏之は「狩猟対象を生け捕りにすることで、血のにおいを嗅ぎつけてやってくる肉食獣の獲物への接近を防ぐ」ことを言及した(佐藤2002)。

陥穴に獲物がかかった場合、生け捕りにされたのか、木槍等で殺傷されたのかを結論づけることは難しい。ただ、使い分けがなされたと考えるのが妥当であろう。本遺跡においても、上記のどちらかで使用されたと考えられるが、遺構の状態からは判別できなかった。

石製品が検出された層位は、縄文時代の層位と考えられる第3・第4層である。実測を行わなかった

残り6点の黒曜石についても、第3層から出土したものが5点、第4層から出土したものが1点と、両層からの出土に限られている。遺物は東側に集中して出土しているため、石器製作を行った残滓とも考えられる。

本遺跡は数少ない遺構・遺物から解釈すると、スタ場などの水場を目的に谷に下りてきたイノシシやシカを捕獲するための陷阱をかけた場であったと判断した。

<引用・参考文献>

- 井上輝夫・宮井栄一他 1982 『裾野市千福市場平第1、第2、小杉平第1、第2、細野沢遺跡発掘調査報告書』 裾野市文化財調査報告 第3集 裾野市教育委員会
- 佐藤宏之 1989「陥し穴状土坑と縄文時代の陥し穴獵」『多摩ニュータウン遺跡 -昭和62年度- 第5分冊』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第10集 財東京都埋蔵文化財センター（多摩ニュータウンNo426遺跡）
- 中野國雄他 1992『裾野市史 第一巻 資料編 考古』 裾野市
- 大川清他 1996『日本土器事典』雄山閣
- 今村啓爾 1999『縄文時代の実像を求めて』 吉川弘文館
- 青鶴邦夫 2002『縄文時代の陥し穴について～愛鷹山麓・箱根山麓の遺跡から～』『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』 第9号 財静岡県埋蔵文化財研究所
- 佐藤宏之 2002『日本列島旧石器時代の陥し穴獵』国立民族学博物館調査報告33
- 池谷信之 2009『旧石器時代における陥し穴獵と石材獲得・石器製作行動 - 愛鷹・箱根山麓 BB III層期を中心として - 』『駿台史学』第135号
- 野田正人他 2007『佛ヶ尾遺跡』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第175集
- 阿部敬他 2008『下ノ大塚遺跡』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第190集
- 壬生亮輔他 2008『棚返遺跡・今里遺跡』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集
- 阿部敬 2008『老平遺跡』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第192集
- 薬科泰裕他 2008『裾野市富沢・桃園の遺跡群』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第193集
- 木崎道昭 2011『千福南山III西遺跡』 財静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第226集

# 附編 分析

## 細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡出土黒曜石産地推定分析

独立行政法人 沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月 明彦

分析法 エネルギー分散蛍光 X 線分析法(EDX)

分析装置 セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光 X 線分析計 SEA-2110L

産地推定法

得られた蛍光 X 線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標  $\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$  とする。

Rb 分率 =  $\text{Rb}/\text{Sum}$

Sr 分率 =  $\text{Sr}/\text{Sum}$

Zr 分率 =  $\text{Zr}/\text{Sum}$

$\text{Mn} * 100/\text{Fe}$

$\log(\text{Fe}/\text{K})$

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

① 判別図法(判別図のシート参照)

用いる指標：図1 横軸：Rb 分率、縦軸：Mn/Fe

図2 横軸：Sr 分率、縦軸： $\log(\text{Fe}/\text{K})$

特 長：簡単な計算であり、誰にでも作成可能

視覚的に確認でき、分かりやすい。

推 定 方 法：遺跡出土試料を蛍光 X 線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

② 判別分析(推定結果表参照)

用いる指標：算出された指標全て

特 長：各産地との類似度を距離で算出

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→ 未知の産地の判別はできない。

推 定 方 法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

この産地は試料と2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的に n 次元で計算する。

試料と最も距離(マハラノビス距離)が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

度地質石質地盤(S-700 SEA-21100 基準)積分地盤圖による)

地名	地圖編號	2.7丁	耕種面積	耕種物質
西北區	1	白頭	八分地	稻米
	2	土城	萬石六分地	稻米
	3	龜山	一甲地	稻米
	4	鵝川	萬石六分地	稻米
	5	東北	萬石六分地	稻米
	6	小土川	四分地	稻米
東南區	7	新田	四分地	稻米
	8	新田	四分地	稻米
	9	大新田	七分地	稻米
	10	新田	八分地	稻米
東區	11	南鄉	七分地	稻米
	12	南鄉	七分地	稻米
西區	13	新東山	山丘地	稻米
	14	南鄉	七分地	稻米
樹木	15	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	16	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	17	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	18	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
東南	19	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	20	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
東北	21	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	22	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
東南	23	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	24	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
東北	25	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地
	26	南東山	丘陵地帶	黑毛山野櫻 七分地

佐々木製薬氏発明特許「まだ癡罔には入れて」といふ。

卷之三		水土之宜		地脉之理		山川之形		八卦之数		合生合化的图	
游子	北上	北上之利	北上之害	北上之利	北上之害	北上之利	北上之害	北上之利	北上之害	北上之利	北上之害
	北上之利	北上之害	北上之利								
	北上之利	北上之害	北上之利								
	北上之利	北上之害	北上之利								
黄壤	南向	南向之利	南向之害	南向之利	南向之害	南向之利	南向之害	南向之利	南向之害	南向之利	南向之害
	南向之利	南向之害	南向之利								
	南向之利	南向之害	南向之利								
	南向之利	南向之害	南向之利								



相关阅读：《n-148进点》黑曜石产地推定结果报告

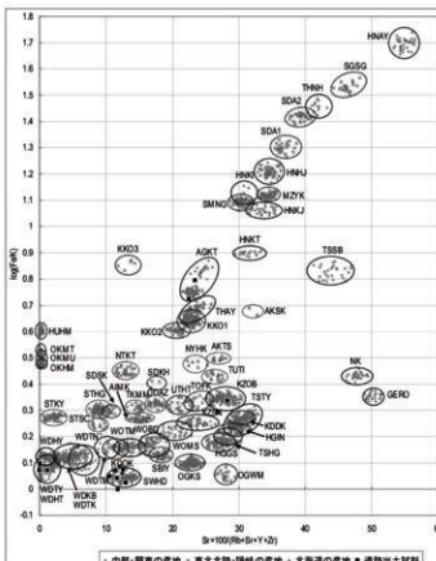
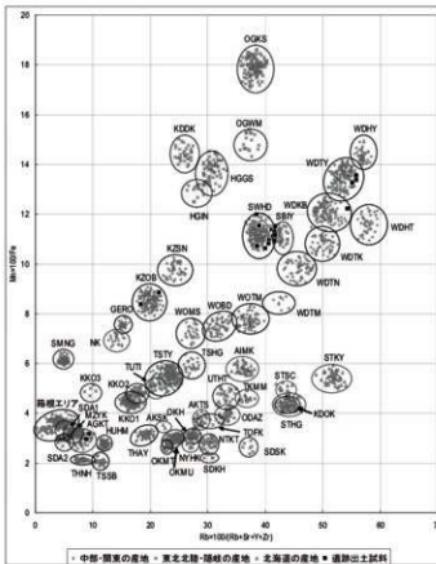
分類 番号	遺物 番号	推定地	判別因 判定群	判別分析			
				第1候補地		第2候補地	
				判別群	距離	判別群	距離
HS-1	975	和田小尻沢	W003	W003	20.17	W003	22.35
HS-2	616	天城町	AGAT	AGAT	5.67	X001	144.25
HS-3	325	諫別＝台原	SB03	SB03	9.38	W073	82.47
HS-4	413	天城町	AGAT	AGAT	6.81	X001	99.17
HS-5	1666	恵庭熱帯原	K008	K010	6.17	K237	27.55
HS-6	994	諫別＝台原	SB03	SB03	4.75	S037	96.96
HS-7	605	諫別＝台原	SB03	SB03	7	S037	60.48
HS-8	393	諫別＝台原	SB03	SB03	8.97	S037	74.74
HS-9	632	諫別＝台原	SB03	SB03	10.66	S037	96.42
HS-10	162	和田裏原	W073	W073	7.23	W089	13.09
HS-11	631	諫別＝台原	SB03	SB03	9.63	S037	54.01
HS-12	911	諫別＝台原	SB03	SB03	11.24	S037	67.0
HS-13	111	諫別＝台原	SB03	SB03	8.9	S037	86.22
HS-14	621	和田裏原	W073	W073	7.43	Q009	18.42
HS-15	913	諫別＝台原	SB03	SB03	13.65	S037	111.74
HS-16	629	諫別＝台原	SB03	SB03	7.62	S037	77.56
HS-17	1996	諫別＝台原	SB03	SB03	14.02	S037	61.97
HS-18	907	諫別＝台原	SB03	SB03	2.67	S037	106.6

南山關水頭站 (No.148-3) 黑龍江省嫩江市的黑龍江

分析 番号	面積 面積	推定產地	判別因 判別群	判別分析					
				第1候補地		第2候補地			
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
E055-19	78	神奈川県相模原市	K20B	K20B	2.87	1	K20S	77.90	0
E055-20	81	和歌山県岸和田市	M07Y	M07Y	5.11	1	M08Y	31.80	0

南山裏水流域，雨水過篩過羅石槽宣傳牆相連。

エリア	種群群	記号	試料数	%
和田	瀬山	RHT	35	100
	小波沢	WBD	1	3
瀬路	尾 + 台	SMD	17	60
	天城	AKT	3	10
神奈川	追分路	KTR	2	10
	合計		20	100
不可など			0	
無記			70	



## 写真図版

図版 1



細沢遺跡 調査区全貌（北東から）



細沢遺跡 東拡張区 調査区全貌（西から）

図版2



細沢遺跡 東塗張区 休場中層直上 積群分布（北西から）



細沢遺跡 休場中層 積群検出状況（西から）



細沢遺跡 休場中層 積群2



細沢遺跡 休場中層 積群3

図版 3



細沢遺跡 東拝拵区 繩文層 遺物出土状況 (東から)



細沢遺跡 東拝拵区 繩文層 遺物出土状況 (北から)

図版4



細沢遺跡 西拡張区  
縄文層 第I群土器  
出土状況 (北から)



細沢遺跡 東拡張区  
縄文層 集石1  
出土状況 (北西から)



細沢遺跡 東拡張区  
休場中層 7号土坑  
実掘状況 (西から)



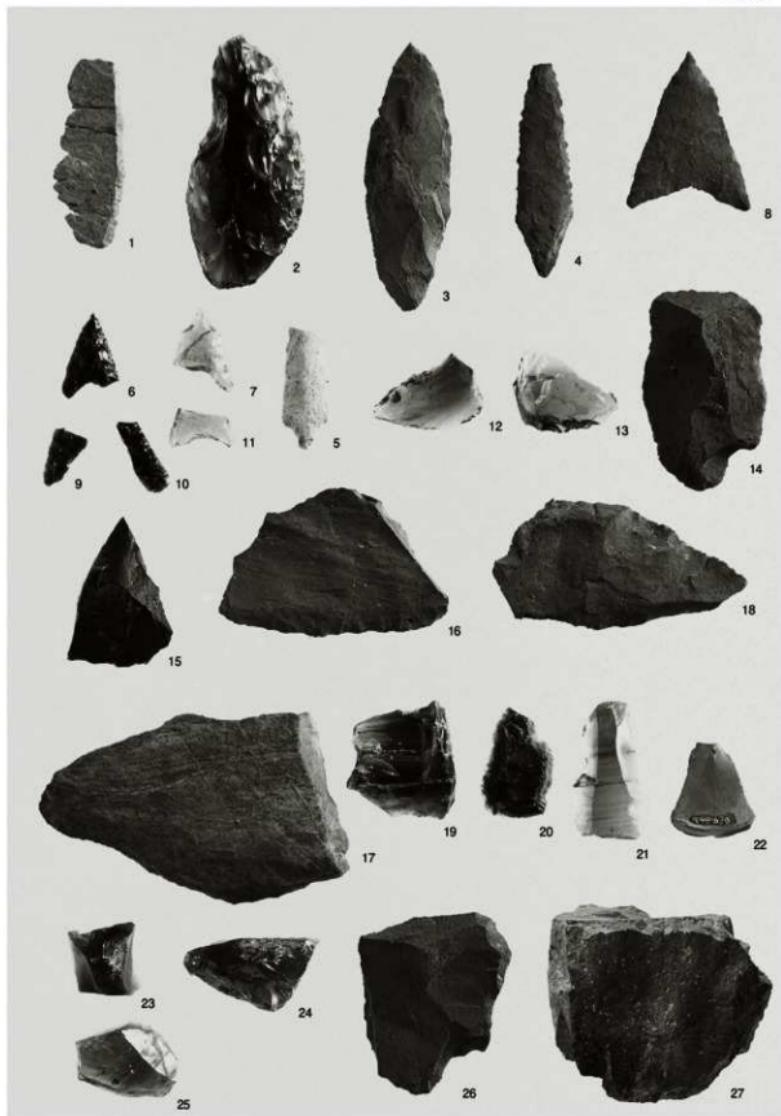
細沢遺跡 繩文土器 (1)

図版 6



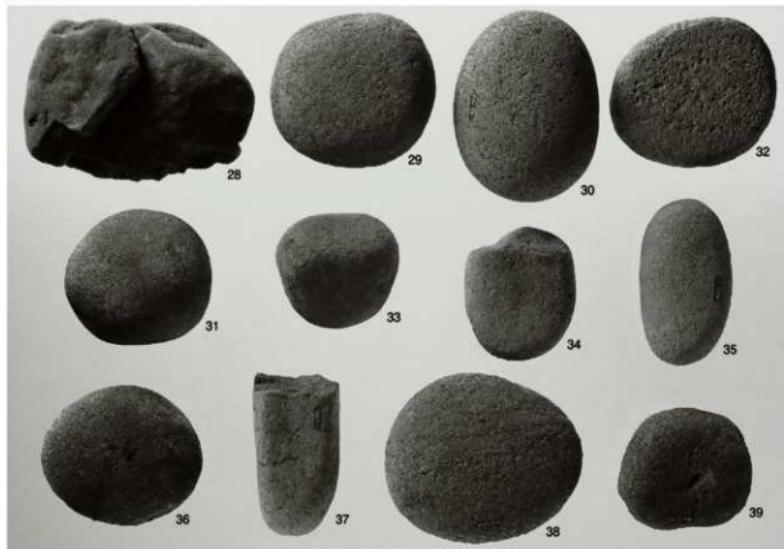
細沢遺跡 純文土器（2）

図版 7



細沢溝跡 旧石器・縄文 石器 (1)

図版8



細沢遺跡 雄文 石器（2）

図版9



南山Ⅲ東遺跡 調査区全景（北西から）



南山Ⅲ東遺跡 調査区全景 完掘状況（北から）

図版 10



南山Ⅲ東遺跡 土坑検出状況（南東から）



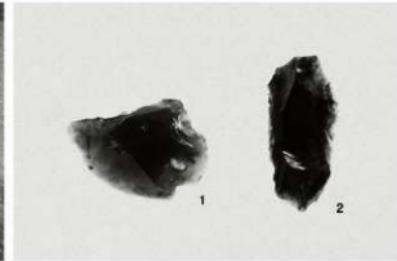
南山Ⅲ東遺跡 土坑2 完掘状況（南から）



南山Ⅲ東遺跡 土坑3 完掘状況（西から）



南山Ⅲ東遺跡 土坑4 完掘状況（西から）



南山Ⅲ東遺跡 縄文 石器

## 報 告 書 抄 錄

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第29集

細沢遺跡・南山Ⅲ東遺跡

第二東名Na148・Na148-3 地点他

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市 - 9

平成25年2月28日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター  
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20  
TEL 054-262-4261(代)  
FAX 054-262-4266

印 刷 所 株式会社 三創  
静岡県静岡市駿河区中村町166-1  
TEL 054-282-4031